エト3R-46　32-247

西備戸田十畝著

刑事
民事

控訴法解完

明治十六年第二月刊行

東京帝國大學圖書館

例

治罪法中ニ刑事ノ控訴ハ爲スヿヲ得ル明文アレドモ明治十四年第七十四號ヲ以テ當分施行セザル旨布告セラレ今又タ明治十八年第二號ヲ以テ變例ニテ控訴ヲ爲スヿヲ許サレタリ依テ現行ノ刑事控訴ハ其變例ヲ標準トシテ治罪法ノ正條ヲ履マズンバアラズ之レ是書第二編ノ首ニ本年第二號布告ヲ載セ之レニ綿密ナル註解ヲ施シタル所以ナリ

一　前項ニ謂フ如ク現行ノ刑事控訴ハ變例ニカヽルト雖モ人民ノ進度ニヨリテハ遠カラズ正則ヲ施行セラルヽヤ論ヲ俟タズ故ニ本書ニハ正變交々苟モ刑事ノ控訴ニ關スル條件ハ一モ漏スヿナク集聚シ其解明ヲ爲スニ當テ正變ノ別ヲ明カニシ現行ニ適スルヿヲ力メタリ殊ニ違警罪ノ如キハ明治十四年第五十四號及ヒ第七十一號ノ

布告ヲ以テ一切ノ上訴ヲ停メラレ且本年二號ノ布告ニテモ解停セラレザリシモ是亦タ後日ノ用ヲ慮リ網羅シテ餘サズ只ダ解明ヲ畧シタルノミ

一　民事ニハ未ダ訴訟法ノ頒布ナキユヘ其ノ控訴ノ如キ關係ノ法律至テ尠シ依テ正文法律ニテ足ラズト思フモノハ現行慣例ヲ取リテ聊カ律意ノ在ル所ト慣例ノ實施ニカヽルモノトヲ補フタリ然レトモ之レ只タ九牛ノ一毛ノミ故ニ本書民事ノ控訴ニカヽル第二編ハ未ダ以テ盡サズト云フモ亦タ著者ハ默シテ言フヿ能ハス

一　書中每法文ノ下ニ「解」トアルハ著者カ其法文ヲ解明シタル部分ニシテ著者ノ淺學ナル法理ヲ以テ論ズルニ足ラズ務メテ現ニ實地ニ應用スベキヿヲ主トシタルモノナレハ博學ノ士之レヲ披閲セハ或ハ見戲ニ均シキモノナリト斥ケラルヽヤモ知ルベカラズト雖モ

刑事民事控訴法解

目次

第一編　刑事之部

第一章　總則　一

第一節　現行刑事控訴變例總則　十七

第二節　上告ト控訴トノ別　二四

第二章　控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ構成及ヒ權限　二八

第一節　通則　三〇

第二節　控訴ヲ受ク可キ輕罪裁判所　三四

第三節　控訴裁判所

第三章　刑事控訴手續

第一節　通則

第一款　勾留ヲ受ケタル者控訴ニ付忍得　三五
第二款　裁判言渡書　三九
第三款　控訴ノ期限　四二
第四款　本按ノ裁判言渡ニ在ラザル控訴　四九
第五款　裁判ノ執行　六〇
第六款　雜則　六七
第二節　違警罪ノ控訴　七二
第三節　輕罪ノ控訴　七八
[餘言第一]　控訴ノ二種類　七八
[餘言第二]　輕罪控訴ノ現行變例汎則　八四
輕罪ノ控訴正則　八六
第四節　控訴スルヿヲ得ザル條件

第一款　証人鑑定人　一〇六
第二款　被告人　一一〇
第三款　檢察官　一一三
○
第二編　民事之部
第一章　控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ構成及ヒ權限　一一七
第一節　始審裁判所　一二一
第二節　控訴裁判所　一二三
第二章　民事控訴手續　一三七
[餘言第一]　未決四人ノ控訴　一三八
[餘言第二]　裁判費用
○

布告ヲ以テ一切ノ上訴ヲ停メラレ且本年二號ノ布告ニテモ解停セラレザリシモ是亦タ後日ノ用ヲ慮リ網羅シテ餘サズ只ダ解明ヲ畧シタルノミ

一　民事ニハ未ダ訴訟法ノ頒布ナキユヘ其ノ控訴ノ如キ關係ノ法律至テ尠シ依テ正文法律ニテ足ラズト思フモノハ現行慣例ヲ取リテ聊カ律意ノ在ル所ト慣例ノ實施ニカヽルモノトヲ補フタリ然レトモ之レ只タ九牛ノ一毛ノミ故ニ本書民事ノ控訴ニカヽル第二編ハ未ダ以テ盡サズト云フモ亦タ著者ハ默シテ言フヿ能ハス

一　書中每法文ノ下ニ「解」トアルハ著者カ其法文ヲ解明シタル部分ニシテ著者ノ淺學ナル法理ヲ以テ論ズルニ足ラズ務メテ現ニ實地ニ應用スベキヿヲ主トシタルモノナレハ博學ノ士之レヲ披閲セハ或ハ兒戲ニ均シキモノナリト斥ケラルヽヤモ知ルベカラズト雖モ

著者ハ敢テ博學ノ士ニ披閲ヲ乞フニ非ズ法文ヲ解スベカラザル後進者ニ實地施行ヲ指示スルニ過ギザルノ意ヲ以テ筆ヲ操リシモノナルユヘ笑フモノアルモ幸ニ棄テラルヽヿ勿レ

一　法文ヲ解スルニ非スシテ聊カ著者ノ意見ヲ載スル所ニハ[餘言]ヲ以テ別ヲ爲シ或ハ畧シ或ハ解ク等著者其ノ所以ヲ示ス所ニ當リテハ[著者白]ノ枠ヲ附シ閲讀ノ際ニ混淆セサランヿヲ防ギタリ

一　法文ハ彼是ヲ比附援引セザレバ其ノ全キヿヲ得ヘカラズ殊ニ變例ヲ以テ現行ト爲ス法律ノ如キハ其ノ援引ナクンバ殆ント明ヲ失スルニ至ルノ憂ヒナシトセス故ニ本書註解ノ下ニ[參照]ナル枠ヲ置キ其ノ法文ニ對シ援引スヘキ法律ノ條項又ハ布告ノ番號ヲ示シ本書中ニ散見スルモノニ付テハ之レニ何[ページ]ヲ見合スベキヿヲ畧示セリ又タ[治]トアルハ治罪法ノ畧ニシテ[刑]トアルハ刑法ノ畧ナリ

一　卷末ニ裁判所ノ管轄區劃一覽表ヲ載セタルモノハ控訴スル者ガ其ノ管轄ヲ一目ノ下ニ見ルノ便ヲ得セシメンタメナリ

明治十八年一月中澣玉浦ノ僑居ニ識ス　　戸田十亀

刑事民事控訴法解

目次

第一編　刑事之部
第一章　総則
第一節　現行刑事控訴變例総則　一
第二節　上告ト控訴トノ別　十七
第二章　控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ搆成及ヒ權限
第一節　通則　二四
第二節　控訴ヲ受ク可キ輕罪裁判所　二八
第三節　控訴裁判所　三〇
第三章　刑事控訴手續
第一節　通則　三四

第一款　勾留ヲ受ケタル者控訴ニ付必得　三五
第二款　裁判言渡書　三九
第三款　控訴ノ期限　四二
第四款　本按ノ裁判言渡ニ在ラザル控訴　四九
第五款　裁判ノ執行　六〇
第六款　雜則　六七
第二節　違警罪ノ控訴　七二
第三節　輕罪ノ控訴　七八
餘言第一　控訴ノ二種類　七八
餘言第二　輕罪控訴ノ現行變例汎則　八四
輕罪ノ控訴正則
第四節　控訴スルヿヲ得ザル條件　八六

第一款　証人鑑定人　一〇六
第二款　被告人　一一〇
第三款　檢察官　一一三
○
第二編　民事之部
第一章　控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ搆成及ヒ權限　一一七
第一節　始審裁判所　一二一
第二節　控訴裁判所　一二三
第二章　民事控訴手續　一三七
餘言第一　未決囚人ノ控訴　一三八
餘言第二　裁判費用
○

附錄　日本全國各裁判所管轄區劃一覽表　一四一
變例　一五八

刑事民事 控訴法解

西備　戸田十祉　著

第一編　刑事之部

第一章　總則

第一節　現行刑事控訴變例總則

第一　明治十八年一月六日第二號布告

明治十四年(十二月)第七十四號布告ヲ廢シ自今輕罪ニ係ル控訴ハ左ノ規則ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ得但治罪法中此規則ニ牴觸スル條件ハ當分ノ内施行セス

解　我邦治罪法ノ發布ハ未曾有ノ盛典ニシテ人民ノ幸福ヲ得ル少小ニアラス又タ寃罪ニ叫ブ如キ弊ヲ見サルヤ勿論ナリ殊ニ彼

ノ刑事控訴ノ條件ニ至リテハ刑事裁判ノ覆審ニカヽルモノニシテ一層ノ美ヲ見ルノ榮ヲ得タリシニ我人民ノ地位未タ茲ニ至ラサルモノト認メラレシカ我政府ハ當分ノ內刑事ノ控訴ニ關スル條件ハ施行セズト布告セラレ三ケ年ノ間刑事裁判ノ覆審ヲ得ルノ道ヲ塞ガレシモ今茲ニコノ布告ヲ以テ之レカ何分ヲ解カレタリ嗚呼治罪法ノ光輝更ニ煩々タルヲ得タリト謂ハズシテ何ゾヤ此ノ布告亦タ素ヨリ變例ニカヽルトハ云フモノヽ我人民ノ進度ニ於テハ敢テ間然スベキモノナキ乎

控訴ヲ許サレタルハ輕罪ノミニシテ違警罪ニ至リテハ警察署ニ於テ爲ス變例ヲ實行セラルヽユヘ未タ之レヲ許サレザルナリ且ヤ本布告ニ牴觸スル治罪法中ノ條件ハ當分施行セズトセラレタルモ强チ人民ノ幸福ヲ害フモノトハ謂フ可カラズ請フ左ノ條々

ニ解說スルヲ見テ知ルヿヲ得ヨ

參照 十四年八十號布告〇十四年四十四號布告

第一條 控訴ハ治罪法中本按ノ裁判言渡前ニ許シタルモノト雖モ總テ本按ノ裁判言渡アリタル後ニ非ザレハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

解 治罪法中公判ニ於テ管轄違又ハ公訴受理ス可カラザルノ中立ヲ爲シ其中立ヲ棄却セラレタル時(治二百七十七條二百七十八條)公判ニ於テ民事原告人民事擔當人ガ異議ノ中立ヲ爲シ其判決ヲ爲サレタル時(治三百三條三項)等ニ於テハ本按ノ裁判言渡ヲ待タズシテ控訴スルヿヲ得ルノ正條アリシヲ本條ニ於テハ是等ノ控訴ト雖モ本按ノ裁判言渡アリタル後ナラデハ爲スヿヲ許サレザルノ變例トセラレタルナリ

參照 治二百七十七條(五十二ページ)二百七十八條(五十三ページ)三百三

條三項（五十八ページ）

第二條　控訴ノ期限内ハ控訴ヲ爲サズシテ直チニ上告ヲ爲スコトヲ得但對手人控訴ヲ爲シタル時ハ此限リニ在ラス控訴ヲ爲サズシテ直チニ上告ヲ爲シタルトキハ原裁判言渡ニ對シ更ニ控訴ヲ爲スコトヲ得ズ

【解】治罪法ノ正條ニヨル時ハ或ル條件ヲ除クノ外裁判言渡ニ對シテ上告ヲ爲スハ必ズ終審裁判即チ控訴ヲ經タル後ナラデハ上告スルヿ能ハザルモノナリ（治三百四十六條三百七十一條）ト雖モ本條ハ之レガ變例ヲ設ケラレタルモノニシテ控訴ヲ爲スモ上告ヲ爲スモ適意ニ任ストノ事ナリ之レ被告人ニ取リテハ頗ル便益ノ法ニテ却テ治罪法ノ正條ニ優ル思ヒヲ爲スベキヿト思ハルヽナリ其控訴又ハ上告ヲ爲スベキ對手人（相手方ナリ）ガ控訴ヲ爲シ

タルトキハ直チニ上告スルト云フ譯ケニハ至ラズ必ズヤ對手人ノ爲シタル控訴ノ終審裁判ヲ待チテ后チ上告セヲバナラヌト云フ本條ナリ且又タ一端上告ヲ爲シタルトキハ假令如何ニ控訴シテ覆審ヲ請ヒタキトテ最早控訴スルヿハ能ハザルモノトス何トナレハ上告ヲ爲シタルトキハ其裁判ハ已ニ終審ノ裁判トナル譯合ニテ覆審ヲ請フベキ道ヲ自ラ遮斷スルノ理ナレバナリ

本條ニヨルトキハ控訴ノ期限内即チ裁判言渡ヨリ五日以内（直チニ控訴スベキモノモアリ）ニハ上告ヲ爲スヿモ得ル都合ナリ然ルニ治罪法第四百十四條ニヨルトキハ上告ノ期限ハ三日ナリ依テ本條ヲ以テスルトキハ上告ノ期限二日ヲ延ベラレタルノ變例ナル如シ是亦タ被告人ノ利益ナリ

【參照】治三百四十六條（七十八ページ）三百三十九條（四十二ページ）三

百七十一條（百〇四ページ）三百六十六條（四十四ページ）四百十四條

第三條　被告人公訴ノ裁判言渡ニ對シ控訴ヲ爲サントスルトキハ裁判費用ノ保證トシテ金拾圓ヲ豫納ス可シ

第四條　被告人ニ於テ證人鑑定人ノ呼出ヲ請求スルトキ前條保證金ニテ不足ト認ムル場合ニ於テハ別段其費用ヲ豫納セシムヘシ

解　本二ケ條ハ公訴ニノミ關シ私訴ニハ關係ナキモノトス私訴ニ付テハ既ニ正則卽チ治罪法ノ正條ヲ施行セラレアルモノニシテ明治十四年第七十四號布告ノ如キハ殊ニ公訴ニ關スル控訴ノミヲ當分施行セズトセラレタル譯合ナリ故ニ私訴ノ控訴ハ從前ノ如ク矢張リ治罪法ノ正條ニヨルモノニテ別ニ保證金ヲ納ムルニハ及バザルナリ而メコノ保證金ヲ豫納スルハ公訴ト雖モ公判

ノ裁判言渡ニ對シテ控訴スルモノニ限ル譯ケニテ彼ノ治罪法第二百七十七條第二百七十八條第三百二條第三百三條等ノ場合ニ當リテ控訴スルニハ別ニ保證金ヲ豫納スルニハ及バザルモノヽ如シ

第三條ノ意ハ公訴ニ關スル公判ノ上ノ裁判言渡ニ對シ被告人ヨリ控訴セントスルニハ公訴裁判費用ノ手當トシテ其保證ノタメ金拾圓ヲ豫メ裁判所ヘ納ムルノ變例トセラレタルモノナリ尤モ控訴ノ期限內ニ控訴ヲ爲サズシテ上告ヲ爲ストキハ上告ノタメニ保證金ヲ豫納スルニハ及バザルナリ

第四條ハ第三條ヲ受ケタルモノニテ、被告人カ控訴スルタメ公訴裁判費用ニ宛テ金拾圓ヲ豫納シタリトテ强チ裁判費用カ足レニテ足ルト謂フ譯ケニハ非ザルユヘ被告人ニシテ其自身ヨリ證人

ナリ鑑定人ナリヲ呼出サレンヿヲ請フタルトキハ裁判所ニ於テハ其ノ豫算ヲ立テラレ既納ノ拾圓金ニテ不足スルト思ハレタルトキニハ其ノ上幾何カノ保證金ヲ更ニ納ムベキヿヲ申付ケラルヽモノトス

此ノ二ケ條ハ變例中ノ尤モ變例ナルモノコシテ大ニ被告人ノ控訴權ヲ縮メラレタルモノナリト雖モ此ノ變例ナキトキハ被告人コシテ或ハ万一ノ僥倖ヲ慮リ尽タ控訴スルノ弊ヲ來タサズト云フ可カラズ彼ノ今日現ニ上告者ノ多キヲ見テモ知ルベキナリ我カ政府ノコノ變例ヲ置カレタルモ人民ノ進度ニ於テ又タ止ムヲ得ザルモノナル乎

第五條　治安裁判所ニ於テ爲シタル輕罪ノ裁判言渡ニ對スル控訴ハ管轄輕罪裁判所ニ之ヲ爲スベシ其控訴ヲ受タル裁判所ニ於テハ治

罪法中輕罪ノ控訴ニ付定メタル規則ニ從ヒ之ヲ裁判スヘシ

【解】本條ハ控訴裁判ノ管轄ヲ定メラレタル變例ニシテ殊ニ控訴ノ手續ニ用多キモノナルユヘ綿密ニ解釋セントス讀者意ヲ注ギテ之レヲ閲スベシ

治安裁判所ニ於テハ輕罪ノ裁判ヲ爲ス可キ權ナキヤ治罪法ノ正條(第四十九條ヨリ第五十三條マデ)ニ明カナリト雖モ明治十四年第五十四號ヲ以テ豫審ヲ要セザル輕罪ニ限リ治安裁判所ニ於テ裁判スルノ變例ヲ布告セラレタルヲ以テ斯クハ本條ヲ設ケラレタルモノナリ輕罪裁判所ニ於ケルモ治安裁判所ニ於ケルモ同等ナル輕罪ヲ裁判スルモノナレバ其裁判ノ權モ同一ナルガ如シト雖モ決シテ然ラザルナリ何トナレバ乙ハ豫審ヲ要セザルモノニ限リ其豫審ヲ要セザルモノハ裁判モ又タ易ケレバナリ故ニ治安

裁判所ニ於テ爲シタル輕罪ノ控訴ハ其治安裁判所ヲ管轄スル始審(輕罪)裁判所ニ爲スヿトハ定メラレタルナリ

而メ其控訴ヲ受ケタル輕罪裁判所ハ輕罪ノ終審裁判ヲ爲スベキモノナルユヘ治罪法中輕罪ノ控訴ニ關スル規則ニ從ヒ裁判スベシト定メラレタルカラハ治罪法第二編第四章ナル控訴裁判所ノ構造及ヒ權限ヲ適用セラル可キヤ論ヲ俟タズ然レドモ其第六十三條ナル控訴ノ裁判ハ判事三名以上ニテ之ヲ爲スベシトノ條ヲモ適用セラル可キカ將タ輕罪裁判所カ違警罪ノ控訴ヲ裁判スル如ク判事ニ定員ナキモノナルカ著者ハ之レヲ十分ニ斷言スルヿ能ハズト雖モ本條ニ其變則ヲ載セラルヽヿナク且ツ昨冬始審裁判所ニ判事ヲ增シ所長ハ從來ノ判事ヨリハ給ノ多キモノニ轉シラレタル等ヲ以テ見レバ必ズヤ治罪法第六十三條ニヨリテ判事

三名以上ニテ裁判セラルヽモノナル可シ其理如何トナレハ同一輕罪中ニテ豫審ヲ要スルモノト要セザルモノトノ別アリテ輕罪裁判所ハ治安裁判所ノ權内ニテ裁判セシ輕罪即チ豫審ヲ要セサルモノヽ控訴ヲ裁判スルモノニテ豫審ヲ要スルモノハ輕罪裁判所自ラ始審ノ裁判ヲ爲スヿヘ控訴裁判所ニ控訴セズンバアラズ其甲ハ審理ニ易ク乙ハ審理ニ難キヲ以テ同一輕罪中ニテ此ノ別アル如シト雖モ決シテ然ルモノニ非ズ輕罪裁判所素ヨリ豫審ヲ要セザル輕罪ノ始審裁判ヲ爲ス而モ其控訴ハ控訴裁判所ニ爲サスンバアラズ故ニ同シク豫審ヲ要セサル輕罪ニテモ一ハ其控訴ヲ輕罪裁判所ニ爲スヘク一ハ其控訴ヲ控訴裁判所ニ爲スベク定メラル依是觀是上等ノ裁判所ヘ爲スハ利益多クシテ下等ノ裁判所ヘ爲スハ利益少キモノヽ如シ然レモ輕罪裁判所亦タ控訴裁判

所ニ讓ラザルノ判事アリ何ゾ利益ノ多少ヲ論ズルニ足ランヤ其ノ利益ニ別アルハ裁判ノ手續如何ニアリ輕罪裁判所ノ控訴裁判ニ判事(判事補ハ陪席セザル可シ)三名以上ヲ以テスルノ要アル夫レ斯ノ理ニ由ルモノナリ

輕罪裁判所支廳ハ明治十六年第二號布告ヲ以テ本廳同一ノ權限ヲ以テ裁判スルコト定メラル然ラハ支廳ノ管內ニ在ル治安裁判所ニ於テ爲シタル輕罪ノ控訴モ本廳同一ニ裁判スルモノヽ如シト雖モ十六年第二號布告ハ輕罪ヲ裁判スルニ同一ノ權限ヲ以テスルモノニシテ本條ハ控訴ヲ裁判スル權限ヲ定メラレタルモノナレハ本條ニ於テ權限如何ノ解釋ヲ下ストキハ支廳ニ於テハ控訴ノ裁判ヲ爲スノ權ナキモノトセラレタルヤ必セリ外面ヲ以テ之レヲ推スモ昨冬始審裁判所ニハ判事ヲ增員シ所長ヲ轉スルモ

支廳ニ於テハ其事アルヲ聞カス依然一員ノ判事(所長ナリ)ヲ以テ搆成シアリ何ゾ控訴ノ裁判ヲ爲スノ權限ヲ有スルヿアランヤ

[參照]十四年五十四號布告(十三ページ)十六年第二號布告○治第六十三條(三十一ページ)第六十四條(三十二ページ)第六十五條(三十二ページ)第六十六條(三十三ページ)第六十九條(三十四ページ)第五十七條(二十九ページ)

[第二]明治十四年十月六日第五十四號布告

刑法治罪法實施ノ儀布告候ニ付テハ當分ノ內輕罪ニシテ豫審ヲ要セスト見込ムモノニ限リ始審裁判所々在ノ地ヲ除クノ外治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ其裁判ヲ爲スヿヲ得ヘシ此旨布告候事

但本文ノ場合ニ於テ訟廷內治罪ノ手續ハ便宜可取計其手續上ニ付

テハ上訴ヲ許サス

第三 明治十四年十二月廿八日第七十一號布告

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク時ハ當分ノ内其所在ノ地警部ヲシテ檢事ノ事務ヲ代理セシム

右奉 勅旨布告候事

解 治安裁判所ハ治罪法ニ於テ違警罪裁判所トシテ同罪ヲ裁判スルモ輕罪ヲ裁判スルノ權ナシ然ルヲ本布告ヲ以テ變例ヲ定メラレ始審裁判所又ハ其支廳ノ在ラザル地ニアル治安裁判所ニ於テハ豫審ヲ要セサル輕罪ニ限リ輕罪裁判所ヲ開キテ裁判シ檢事ノ事務ハ警部ガ代理スルヿトセラレタリ

期ノ變例ヲ定メラレ治安裁判所ニ於テ時トシテハ輕罪裁判所ヲ開クモ素ヨリ輕罪裁判所ト構成ヲ異ニスルモノナルユヘ訟廷内

治罪ノ手續モ整頓セシモノニ非ス依テ之レガ簡易ノ手續ヲ以テ爲スモノナレバ治罪法ノ正條ニ反スルモノ少シトセサル可シ之レニ其手續上ニ對スル上訴ヲ許スヿトセバ或ハ悉ク上訴スルヤモ計リ難シ依テ訟廷内治罪ノ手續ハ便宜ニ爲スヿトセラレ且ツ之レニ對スルノ上訴ハ一切許サヌヿトセラレタリ然リト雖モ這ハ之レ治罪ノ手續上ニ止ルモノニシテ裁判言渡ニ對シテ佗ト同一ニ控訴又ハ上告スルヿ能フヤ勿論ナリ

参照 十八年二號布告第五條（八ページ）

第四 明治十四年十二月廿八日第八十號布告

本年九月第四十八號布告左ノ通改正ス

違警罪ノ儀ハ本年第三十六號布告ニ據リ明治十五年一月一日ヨリ治安裁判所ニ於テ裁判スヘキ處當分ノ内府縣警察署及ヒ其分署ニ於テ

裁判セシムル可シ

右奉　勅旨布告候事

第五　明治十四年十月二十日第四十四號布告

違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フ可シト雖モ實際已ムヲ得サル場合ニ於テハ當分ノ内便宜取計ヒ其裁判言渡ニ付テハ總テ上訴ヲ許サス此旨布告候事

解　違警罪ニ於テモ控訴上告ヲ爲シ能フヿハ治罪法中正條ノアルヿナレドモ未タ正式ナル治安裁判所ニ於テ之レガ裁判ヲ爲スヿナク變式ナル府縣警察署又ハ其分署ニ於テ裁判スルヿトセラレタル現行ナルカラハ其審判ニ關スル都テノ手續モ裁判所ニ於テスルト同一ニ爲スヿ能ハス適宜ノ便法ニ依ラズンハ能ハザルナリ而シテ其裁判言渡ノ如キ亦タ十分ニ法律ノ正式ヲ履ムヿ能ハ

ザル可ク殊ニ違警罪ハ重輕罪ニ比スレハ人民ノ利害上ニ關係ヲ及ボスヿ少ナカルベキユヘ斯クハ便宜法ナル變例ヲ置カレ裁判言渡ニ對シテハ都テノ上訴ヲ禁ジラレタリ故ニ控訴上告ノ如キ無論許サレザルヿハ本號ノ布告ヲ見ルモ明カニシテ尚十八年第二號布告文（第一　一ページ）ニモ輕罪ノ云々ト特ニ明記セラレ違警罪ニ關シテハ本號ノ布告ニ據ルモノトセラレタルナリ

參照　十八年第二號布告（一ページ）治五十四條五十五條（二十八ページ以下ニ至ル）三百三十八條ヨリ三百四十六條マデ（七十三ページヨリ七十八ページ）

第二節　上告ト控訴トノ別

第六　治罪法第二編第六章ノ内

第七十七條　大審院ニ刑事局ヲ置キ左ノ條件ヲ裁判ス

一上告

二再審ノ訴

三裁判管轄ヲ定ムルノ訴

四公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴

[第七]治罪法第二編第四章ノ内

第六十三條　控訴裁判所ニ刑事局ヲ置キ輕罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス但其裁判ハ判事三名以上ニテ之ヲ爲ス可シ

[第八]治罪法第三編第三章第三節ノ内

第百四十六條　法律ニ於テハ被告事件ノ模樣ニ因リ有罪ナルノ推測ヲ定ムルヿナシ

被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其

他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ス

[解]上告トハ法律ノ如何ヲ大審院ニ訴出ルモノニシテ控訴トハ事實ノ覆審ヲ控訴裁判所ニ請求スルモノナリ然ルニ世ニハ上告ト控訴トヲ混淆シテ上告ヲ爲スモノ今日現ニ尠ナシトセズ今哉輕罪ノ控訴ヲ施行セラレ上告ト交々之レヲ爲スヿヲ得ルノ時ニ際シタルヲ以テ殊更ニコノ混淆ヲ致シ控訴シテ請求ヲ達スルヿヲ得ルノ事件モ上告シテ棄却セラレ上告シテ破毀セラルヽ事件モ控訴シテ冗費ヲ嵩ムト云フ如キ不幸ヲ見ズト云フ可カラズ依テ著者ハ治罪法中ノ三個條ヲ題シ左ニ上告ト控訴ト異ナルノ点ヲ説明セントス

大審院ハ全國法律ノ統一ヲ主ドル所ニシテ事實ヲ覆審スル所ニアラズ事實ノ覆審ヲ經テ終審裁判言渡ヲ受ケ其裁判ガ法律ニ違

フタルトキ其佗治罪法第四百十條ノ十一件ニ相當スルヿアリタル時ニ當リ初メテ全國法律ノ統一ヲ主ドル大審院ヘ上告スルモノナリトス故ニ大審院ハ法律ノミノ裁判所ニシテ事實ノ如何ヲ裁判スル所ニ非ズ事實如何ヲ裁判スルハ事實法律兼併ノ裁判所卽チ違警罪裁判所輕罪裁判所控訴裁判所重罪裁判所ノアルアリ而メ是等諸裁判所ノ裁判官ハ治罪法第百四十六條第二項正文ノ如ク心証ヲ以テ事實ヲ判定スルノ特權ヲ有スルモノナルユヘ如何ニ日本最上等ノ裁判ヲ司ドル大審院ト雖モ法律ニ正條アル裁判官ノ心證ヲ以テ認定セシ事實ニ迄デ蹈入ルヿハ能ハズ事實ノ審理ハ既ニ終審裁判ニテ確定シ只ダ法律ノ適否如何ヲノミ上告ス而メ後チ大審院ノ判決ニ依テ確定スルモノナリ

故ニ上告ヲ爲サント欲スルモノハ能クコノ理ヲ解シ治罪法第四百十條ノ十一件ニ適當スル上告ノ理由アリヤ否ヲ勘考シ愈以ヲ法律背戻ノ裁判ナリトセバ其理由ヲ趣意書ニ認メ及ヒ辨明書ヲ出シ飽クマデ非理ノ裁判ヲ破毀セラレンヿヲ全國法律ノ統一ヲ主ドル大審院ヘ上告スル可ナレドモ若シ裁判官ノ採証如何ヲ論シ事實ノ認定ニ服セザルヿヲ辨ジ上告スルモノアリタレバトテ法律ハ裁判官ニ任スニ心証判定ヲ以テスルユヘ大審院ハ如何ニ原裁判官ノ採証又ハ心証判定ガ不當ナリト推測スルモ治罪法第百四十六條ノ正文アルヨリハ之レヲ棄却セザルヲ得ズ故ニ上告ニ採證又ハ認定ナル原裁判官ノ心証ニ不服ヲ鳴スモ到底益ナキモノニシテ上告ハ棄却セラルヽモノナリ若シモ始審ノ裁判ニ於テ其裁判官ガ事實ヲ判定セシ其判定ニ對シ不當ナリトスル點アラバ大審院ニ上告セズシテ佗ニ之レガ覆審卽チ調ベ直シヲ請フ

所アリ左ニ之レヲ述ベン

始審(現行ニテハ輕罪ヲ輕罪裁判所又或時ハ治安裁判所ニ於テ公判セラルヽヲ云フ)ノ裁判ニ於テ裁判官ガ被告事件ノ事實ヲ佗ニ認定シタルヲ以テ今一應審理ヲ受ケズンバ寃罪ニ陷ルノ恐レアリトスルトキハ即チ之レヲ原裁判所ヨリ上等ナル裁判所(現行ニテハ治安裁判所ニテ輕罪ノ裁判ヲ開キタルトキハ輕罪裁判所輕罪裁判所ニテ爲シタル輕罪ハ控訴裁判所)ヘ事實ノ覆審ヲ請求スベシ之レ即チ控訴ナリ控訴ヲ爲シ審理ノ末裁判セラレタルモノハ即チ終審ノ裁判ニシテ事實審理ノ終リナリトス終審ノ裁判ヲ受ケタルモノハ最早覆審ヲ請フノ道ナク是ニ於テ事實ノ裁判ハ確定スルユヘ法律背戻ノ点アリトセバ上告スベク法律背戻ノ点ヲ見ルヿ能ハズハ事實法律共ニ確定スルモノトス之レ即チ裁判

確定ナリ

依テ上告ハ必ズ終審裁判ヲ經テ事實ノ確定シタルモノニ限ルヿハ治罪法ノ正則ナレ𪜈現行即チ明治十八年第二號布告第二條(四ページ)ニ於テ之レガ變例ヲ當分ノ間定メラレタルカラハ聊カ左ニ控訴又ハ上告スル者ノ注意ヲ仰ガントス

現行ノ變例ニヨルトキハ強テ終審裁判ヲ經ズトモ上告スルノ自由ヲ與ヘラレタルモノニシテ頗ル上訴者ノ便利ヲ得ルモノヽ如シ何トナレバ始審ノ裁判ニ於テ事實ノ審理充分ナラズトセバ控訴スルヿヲ得。事實ハ兎モ角法律背戻ノ裁判ナリトセバ直チニ上告スルヿヲ得ルモノニテ終審裁判ヲ經サレハ上告スベカラズトスル治罪法ノ正則ニ比スレバ誠ニ便宜ノ變例ナリト云フ可シ只タ著者ハ是ノ時ニ當リ控訴ト上告ト混雜シテ反對ノ上訴ヲ爲シ

後悔スルノ恐レナシトス可カラザルヿ慮ルノミ其ノ理由如何ハ前既ニ説明ス依テ彼是ヲ參照シテ輕忽ノ上訴ヲ爲スヿナカラシヿヲ戒ムルノミ

○

第二章　控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ構成及ヒ權限

第一節　通則

[著者曰] 本節ニ於テ裁判所管轄區劃ノ事ヲ載スベキナレドモ閲者ノ便ヲ慮リ卷末ニ附錄トシテ載スベシ閲者就テ知ルヿヲ得ヨ

[第九] 治罪法第二編第一章ノ内

第三十一條　通常刑事ノ裁判權ハ民事ノ裁判權ト同一ノ裁判所ニ屬ス

[解] 民事刑事ト裁判權ヲ合一ニスルハ裁判所ノ公平ヲ保ツモノニシテ裁判官ノ寛ト酷トヲ調和スルノ最要トス若シ之レニ反シテ一方ニ專務スルトキハ刑事ニ從事スル裁判官ハ自然情實ニ失ニ流レズト云フ可カラズ民事ニ從事スル裁判官ハ自然殘酷ノ弊セズト云フ可カラス斯ク合一スルトキハ裁判官ヲシテ民刑共ニ事務ニ熟錬シ最公平ヲ保ツヤ必セリ控訴裁判所ニ刑事局ヲ置キ民刑兩局ノ區別ヲ爲スト雖モ治罪法第五十五條第六十四條ノ正文ノ如ク滿一年間ノ交替トナシ務メテ公平ヲ保クシムルヿトセラレタリ

[參照] 治五十五條（二十九ページ）六十四條（三十二ページ）

第四十七條　豫審ヲ爲シタル裁判官ハ其公判ニ干預ス可カラス前ニ

豫審又ハ公判ヲ爲シタル裁判官ハ爽訴及ヒ闕席裁判ニ對スル故障ヲ除クノ外其上訴ノ裁判ニ干預スル可カラス此規則ニ背キタル時ハ言渡ノ効ナカル可シ

一解一本條ヲ約シテ謂ハヽ同一ノ裁判官ハ同一ノ被告事件ニ付キ二回ハ干預スル可カラズト云フ意ナリ左ニ之レヲ類ヲ分チテ説明セントス

一豫審判事ガ甲事件ノ豫審ヲ爲シ其後公判刑事ト爲ルトモ自ラ豫審ヲ爲シタル其甲事件ノ公判ヲ爲スヿハ能ハサルモノトス若シ是レヲ爲ストキハ其言渡ハ無効タリ

二豫審判事ガ甲事件ノ豫審ヲ爲シタリシニ其豫審ニ付キ上訴アリタレバトテ之レガ判決スベキ裁判官タルヿハ能ハザルモノトス若シ是レヲ爲ストキハ其言渡ハ無効タリ但シ爽訴又ハ闕

席裁判ニ對スル故障ニハ干預スルヿ能フモノトス

三公判判事ガ甲事件ノ公判ヲ爲シタリシニ其裁判ニ對シ上訴アリタルトキ再ビ之レガ裁判官タルヿハ能ハザルモノトス若シ之レヲ爲ストキハ其言渡ハ無効タリ但シ爽訴又ハ闕席裁判ニ對スル故障ニハ干預スルヿ能フモノトス

右ハ裁判ノ公平ヲ維持スベキ保護法タリ若シモ右ニ反シテ一ノ裁判官ニシテ同一被告事件ニ數回干預スルヿ能フモノトセハ其裁判官ハ始終同一ノ感覺ヲ起シ其手續ノ異ナル毎ニ被告事件ノ事實ヲ看破スルト云フ公平ハ到底保ツ可カラズ寧ロ上訴ナキノ優レルニ如カス寧ロ豫審ナキニ如カザルノ弊ニ陥ル可シ本條ノ正文ハ實ニ裁判官ノ公平ヲ保ツ礎トモ云フ可キガ如シ

第二節　控訴ヲ受ク可キ輕罪裁判所

第十　治罪法第二編第三章ノ内

第五十四條　始審裁判所ハ輕罪裁判所トシテ其管轄地内ニ於テ犯シタル輕罪ヲ裁判ス

又重罪及ヒ輕罪ノ豫審ヲ行フ

又其管轄地内ノ違警罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス

解　本條第三項ノ如ク輕罪裁判所ハ輕罪ノ始審裁判ヲ爲スノヨナラズ其管轄地内ニ於ケル違警罪ノ控訴ヲモ裁判スベキ權ヲ有ス然レトモコノ權限ハ明治十四年第四十四號ニテ當分ノ間施行セラレザルヿトナリタルヲ以テ茲ニ之レヲ説明セズト雖ヒ今茲ニ十八年第二號布告第五條（八ページ）ニ於テ是レニ增ス所ノ重大ナル控訴裁判權ヲ輕罪裁判所ニ與ヘラレタリ這ハ卽チ其條下ニ解明スルヲ以テ又タ茲ニ贅セズ

参照　十八年二號布告五條（八ページ）十四年四十四號布告（十六ページ）

第五十五條　輕罪裁判所判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ始審裁判所判事一名又ハ數名ニ順次滿一年間之ヲ命ス

又滿一年間更ニ其職務ヲ繼續セシムルヿヲ得

第五十七條　判事差支アル時ハ其他ノ判事又ハ判事補其職務ヲ行フ

判事補ハ豫審又ハ公判ニ立會ヒ意見ヲ述ルヿヲ得

解　輕罪裁判所ニ於テ違警罪ノ控訴ヲ受ケ裁判スルトキニ當リテハ通常始審ノ輕罪ヲ裁判スルニ於ケルト同一ナルベシ卽チ本二ケ條ニヨルベキモノナルベシト雖モ現行變例ニヨリ治安裁判所ニ於テ爲シタル輕罪ノ控訴ヲ裁判スルニ當リテハ決シテ違警

罪ノ控訴ヲ裁判スルト同日ノ論ニハ非ザルナリ其詳細ノ理由ハ既ニ其變例布告ノ第五條（八ページ）ニ於テ説明シタルヲ以テ彼是比シテ知ルベシ此ノ變例ニ於テハ本二條ハ決シテ適用施行スル限リニアラサルヤ明ケシ

[參照] 十八年二號布告五條（八ページ）十四年四十四號布告（十六ページ）治三十一條（二十五ページ）

第三節　控訴裁判所

[第十二] 治罪法第二編第四章ノ内

第六十三條　控訴裁判所ニ刑事局ヲ置キ輕罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス但其裁判ハ判事三名以上ニテ之ヲ爲ス可シ

[解] 本條以下[第十二]ノ類中ハ悉ク現行ノ控訴ニ適用スベキモノナルユヘ注意シテ閲讀スベキモノナリトス

控訴裁判所ハ常立（常ニ開テ開閉ナキモノヲ常立ト云ヒ其時ニ臨ミ開クモノヲ開立云トフ）ニシテ民事局刑事局ノ二局ニ分チ其刑事局ニ於テハ管轄地内ノ輕罪裁判所又ハ其支廳ニ於テ爲シタル輕罪ノ始審裁判ニ對スル控訴ヲ受ケテ裁判スル所ナリトス同ジク輕罪ノ始審裁判ナリト雖モ治安裁判所ニ於テ爲シタルモノハ控訴裁判所ニ於テ受理スルヿナク輕罪裁判所ニ於テ控訴裁判所同一ノ手續ヲ以テ控訴ヲ受理スベキ現行變例ナリ

控訴ノ裁判ハ始審ノ裁判ヲ經シモノヲ覆審スルモノナルユヘ尤モ鄭重ヲ尽シ事實ノ認定ヲ再ヒ誤ラザル如ク爲サズンバアラズ依テ始審ノ裁判ニ於テハ判事一名ニテ爲スヲ得ルモ控訴卽チ終審ノ裁判ニ於テハ判事三名（判事補ヲ用ヒズ）以上ヲ以テ之レヲ爲

スヿトセラル其ノ變例ニカヽル輕罪裁判所ニ受クル控訴ノ裁判ニ於ケルモ亦タ同一ナリ

[參照] 十八年二號布告第五條（八ページ）

第六十四條　刑事局判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ其裁判所判事數名ニ順次滿一年間之ヲ命ス

又滿一年間更ニ其職務ヲ繼續セシムル事ヲ得

第六十五條　刑事局判事差支アル時ハ裁判所長ヨリ民事局判事ヲシテ其職務ヲ行ハシム

裁判所長ハ何時ニテモ裁判長ト爲ルヿヲ得

[解] 本二條ハ控訴裁判所刑事局判事ノ職務ヲ示サレタルモノニシテ別ニ人民ニ用ナキヲ以テ解說セズ

控訴ヲ裁判スルニハ刑事局判事三名以上ニテ之レヲ爲シ其內一

名ヲ裁判長ト爲スモノナレドモ時ニ臨ミ要スルヿアリトスルトキハ控訴裁判所長ハ何時ニテモ自ラ裁判長トナリ裁判スルヿ能フモノナリ變例ニカヽル輕罪裁判所ニテ控訴ヲ受ケタルトキモ輕罪裁判所長ハ右ト同一ノ權アルモノナル可シ

[參照] 十八年二號布告五條（八ページ）治三十一條（二十四ページ）

第六十六條　刑事局檢察官ノ職務ハ其裁判所檢事長又ハ其指名シタル檢事之ヲ行フ

[解] 控訴裁判所ニ於テ控訴ヲ受ケタルトキハ檢察官ノ職務本條ノ如シト雖モ變例ニカヽル輕罪裁判所ニテ控訴ヲ受ケタルトキハ始審裁判所ニハ檢事長ナキユヘ上席檢事ニテ之レヲ行フカ又ハ其指名シテ檢事ニテ之レヲ行フモノナルベシ檢事補ハ之レガ職務ニ指名セラルヽモノコハ非ザルベシト思考ス

[參照] 十八年二號布告第五條（八ページ）

第六十七條

第六十八條

[解] コノ二ケ條ハ控訴ノ手續ニ緊要ナラザルユヘ茲ニ畧ス

第六十九條　刑事局書記ノ職務ハ其裁判所書記之ヲ行フ

[解] 別ニ解説スベキコトナシ

[參照] 十八年二號布告五條（八ページ）

○

第三章　刑事控訴手續

第一節　通則

[第十二] 治罪法第四編第一章ノ内

第二百六十二條乃至第二百七十三條○第二百七十五條○第二百七十六條○第二百七十九條乃至第二百九十二條○第二百九十五條○第二百九十八條乃至第三百一條○第三百四條乃至第三百八條○第三百十四條○第三百十七條乃至第三百二十條

[解] 本各條ハ公判通則中ノモノニシテ控訴ニ付テノ公判ニモ皆ナ用ユベキモノナリ今之レガ解説ヲ一々コナサントスルトキハ本書ヲ著述スルノ趣旨ニ反シ啻ニ冗長ニ渉ルユヘ茲ニ尽ク之レヲ畧シタルナリ

[參照] 治三百四十三條（七十六ページ）

第一款　勾留ヲ受ケタル者控訴ニ付心得

[第十三] 治罪法第四編第三章ノ内

第三百六十四條　被告事件輕罪ニシテ且証憑充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ

被告人禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ當然保釋責付ヲ取消シタル者トス但上訴中更ニ保釋ヲ求ムルヿヲ得

[解]本條ハ輕罪公判中ノ一條ニシテ控訴手續ニ付キ別ニ茲ニ載スルニハ及バサルモノヽ如シト雖モ其第二ヲ執テ聊カ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノヽ參考ニ供ヘントス

被告人禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ直チニ監倉ニ留置セラルヽモノニテ保釋中又ハ責付中ノ者ナラバ保釋又ハ責付ハ別ニ取消ノ言渡ナクトモ自然取消サレタルモノトス故ニ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノガ控訴センニハ[第十四]ノ手續ヲ以テシ[第十五]ノ如ク移サルヽモノナルユヘ其控訴ヲ裁判スベキ裁判所ノ監倉ニ至リ保釋ヲ請求セントナラバ治罪法第二百十條乃至第二百十八條ノ手續ヲ爲スベキモノナリ

[參照]治二百十條乃至二百十八條○三百十一條(本ページ)　三百六十七條(三十八ページ)

[第十四]治罪法第四編第一章ノ内

第三百十一條　勾留ヲ受ケタル者上訴ヲ爲シ又ハ保釋ヲ求ムル時ハ其申立書ヲ監獄長ニ差出シ監獄長ヨリ之ヲ其裁判所ノ書記ニ差出ス可シ

[解]控訴ノ申立期限ハ五日ナリ故ニ現ニ勾留又ハ留置セラレアル被告人ニシテ控訴セントスル時ハコノ五日ノ期限内ニ控訴申立書(控訴申立書ノ書式ハ次ニ載ス)ヲ認メ監獄長ヘ迄デ差出シ取次ヲ請フベシ其期限ハ監獄長ヘ迄デ差出シタルトキハタトヘ限

内ニ裁判所ニ達セズトモ其効アルモノナルベシ

第十五 治罪法第四編第三章ノ内

第三百六十七條　公訴ノ裁判言渡ニ對シ控訴アリタル場合ニ於テ被告人勾留ヲ受ケタル時ハ檢察官ヨリ之ヲ控訴裁判所ノ監倉ニ移ス可シ

解 本條ハ治罪法輕罪公判中控訴ニ關スル條件ノ一ニシテ被告人勾留ヲ受ケタル時(禁錮以上ノ刑)ニ控訴シタル時其被告人ヲ如何スベキカヲ定メタル條件ナリ偖テ勾留ヲ受ケザル被告人(罰金科料ノ刑)カ控訴スルトキニ自ラ其ノ控訴スベキ裁判所ノ呼出ニ應シ出頭スルヤ勿論ナレドモ既ニ勾留ノ身トナリタルヨリハ自ラ歩ヲ運バスノ自由ヲ得ズ又タ已レノ欲スル如ク爲ス譯ケニモ至ラザルユヘ勾留ヲ被告人ガ控訴シタルトキニハ原裁判所ノ檢

察官ヨリ之レヲ控訴裁判所(或ハ現行變例ニテハ輕罪裁判所モ)ニ屬スル監倉ヘ移スヿト定メラレタリ

参照 治三百六十四條(三十六ページ)

第二款　裁判言渡書

第十六 治罪法第四編第一章ノ内

第三百十五條　訴訟關係人ハ其費用ヲ以テ裁判言渡書ノ謄本又ハ其抜書ヲ求ムルヿヲ得但上訴ノ爲メ其求ヲ爲シタル時ハ書記ヨリ二十四時内ニ之ヲ下付ス可シ

第三百十六條　對審裁判ニ因リ刑ノ言渡アリタル時ハ裁判所ヨリ其言渡ヲ受ケタル者ニ前條ノ請求及ヒ其言渡ニ對シ控訴又ハ上告ヲ爲スヲ得可キヿ及ヒ其期限ヲ告知シ又闕席裁判ニ因リ刑ノ言渡ア

リタル時ハ其言渡ニ對シ故障ヲ爲スヲ得可キヿ及ヒ其期限ヲ言渡書ニ記載ス可シ

若シ其告知又ハ記載ナキ時ハ通常ノ規則ニ從ヒ其告知アルマテ上訴期限ノ經過ヲ停止ス

[解] 對審ノ上刑ヲ言渡ストキニハ必ズ左ノ件々告知スルモノトス

一此ノ言渡ニ對シ五日以内ニ控訴ヲ申立ルヿ能フ(終審裁判ナルトキハ三日以内ニ上告ヲ申立ルヿヲ得ルトノヿ)トノ事但シ現行ノ變例ニヨルトキハ此ノ言渡ニ對シ五日以内ニ控訴又ハ上告ヲ申立ルヿヲ得ルトノ事

二此ノ言渡書ノ謄本ハ費用ヲ出シテ請求スルトキハ下付スルトノ事但シ此ノ言渡ニ對シ控訴又ハ上告スルナラバ請求シタル時

ヨリ廿四時内ニ下付スベシト附告スル事

右ノ二件ハ刑ノ言渡アリタル後ニテ裁判長ヨリ必ズ告知スルモノナルユヘ若シ其告知ナカリシトキニハ幾日ヲ經ルトモ告知アルマデハ控訴又ハ上告ノ期限ノ過去ルヿヲ停メラルヽモノナリ

依テ被告人ハ殊ニ心得置クベキモノトス

又タ闕席ノ上刑ヲ言渡シタルトキニハ必ズ左ノ件ヲ言渡書ニ記載シテ送達スルナリ

一此ノ言渡ニ對シ言渡書ノ送達ヲ受ケタルヨリ三日以内ニ故障ヲ申立ルヿヲ得ルトノ事

右ノ一件ハ送達スベキ言渡書ニ必ズ記載スベキモノナルユヘ若シ其記載ナキトキハ幾日ヲ經ルトモ告知アルマテハ故障ノ期限ヲ過去ルヿヲ停メラルヽモノナリ

[参照] 明治十四年十二月二日司法省甲第七號布達

治罪法第三百十五條裁判言渡ノ謄本又ハ其抜書ヲ求ムル者ハ其用紙一枚金三錢ノ費用ヲ上納スル儀ト可心得此旨布達候事

[解] 斯クノ如ク一枚ニ付キ金三錢ヲ枚數ニ積リ費用トシテ上納スベキモノナレドモ無資力者ニシテ費用金ヲ上納スルヿ能ハザル者ナルトキハ裁判所ハ無代價ニテ下渡サルヽヿモアル可シ

第三欵　控訴ノ期限

[第十七] 治罪法第四編第二章ノ内

第三百三十九條　控訴ヲ爲サントスル者原裁判所ノ書記局ノ其申立書ヲ差出ス可シ但其申立ノ期限ハ對審裁判ニ付テハ言渡ヨリ三日内又闕席裁判ニ付キ故障アラサル時ハ本人又ハ其住所ニ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス（第二項ハ畧ス）

[解] 本條但書ヲ以テ控訴ノ期限トシ本文ヲ以テ控訴ノ手續トス控訴ノ手續ニ關シテハ本編本章第二節違警罪ノ控訴手續又ハ第三節輕罪ノ控訴手續ノ部ニ復出シ明解スルヨヘ茲ニ畧ス又タ但書控訴期限モ現行變例ニ用ナキヨヘ只タ本條ヲ示シタルノミニシテ別ニ解カス

[参照] 十八年二號布告二條（四ページ）十四年四十四號布告（十六ページ）十四年八十號布告（十五ページ）

[第十八] 治罪法第四編第三章ノ内

第三百六十六條　控訴ハ裁判言渡アリタルヨリ五日内ニ之ヲ爲スヿ得

闕席裁判ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ爲スヿヲ得但第三百五十六條ノ場合ニ於テハ五日內ニ之ヲ爲ス可シ

解 控訴ノ期限ハ始審裁判ノ言渡アリタルヨリ五日以內ナリトス又タ闕席裁判ヲ受ケタルモノハ其ノ刑ノ期滿免除ニ至ルマテハ故障ヲ爲サズシテ何時ニテモ直チニ控訴ヲ爲スヿヲ得ルモノナリ尤モ左ノ參照ニ載スル治罪法第三百五十六條ノ場合ニ當リテハ五日內ニ控訴セズンバアルベカラザルモノトス

參照 十八年二號布告二條（四ページ）

治罪法第三百五十六條 闕席裁判ニ因リ禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ左ノ場合ヲ除クノ外刑期ノ期滿免除ニ至ルマテ故障ヲ爲スヿヲ得

一被告人本案ノ裁判前豫メ裁判ス可キ事件ヲ申立タル時

二裁判言渡ヲ本人ニ送達シタル時

三被告人裁判執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルヿヲ知リタルノ証アル時

第一ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ第二第三ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヿヲ知リタルヨリ三日內ニ故障ヲ爲スヿヲ得

第十九 治罪法第四編第一章ノ內

第三百十二條 訴訟關係人又ハ其代人非常ノ變災厄難ニ因リ上訴期限ヲ經過シタル場合ニ於テ其旨ヲ証明シタル時ハ期限ヲ經過シタルニ因リ失ヒタル權利ヲ回復スルヿヲ得但變災厄難ヲ免カレタルヨリ通常ノ期限內ニ其證據ヲ申立書ニ添ヘ上訴ヲ爲ス可シ

第三百十三條　書記ハ速ニ前條ノ申立書ヲ對手人ニ送達ス可シ對手人ハ三日内ニ答辨書ヲ差出スヿヲ得

上訴ヲ判決ス可キ裁判所ニ於テハ會議局ニテ檢察官ノ意見ヲ聽キ先ツ其上訴ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決ス可シ

上訴ヲ受理ス可キ者ト決判シタル時ハ書記ヲシテ其旨ヲ訴訟關係人ニ通知セシメ通常ノ規則ニ從ヒ本案ノ裁判ヲ爲ス可シ

上訴ヲ受理ス可カラサル者ト判決シタル時ハ他ノ原由アルニ非サレハ卽時ニ裁判執行ヲ爲サシム可シ

【解】控訴ノ期限ヲ計算スルニハ營ヘハ二月一日ニ裁判ヲ言渡サレタルトキハ其翌日卽チ二日ヨリ計ヘ始メ六日ノ夜十二時迄ヲ控訴ノ限内トス故ニ七日ニ至ルトキハ裁判確定シテ控訴スルヿモ上告スルヿモ能ハザルモノトス禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル

モノハ直ニ勾留ノ身トナルユヘ控訴セント欲スル時ニ當リ右ノ期限ヲ經過シテ控訴ノ權利ヲ失フヿナカルベシト雖モ或ハ火災地震等ノ如キ非常ノ事ナシトスベカラズ況シテ勾留トナラザル者ハ天變地異又ハ病難其他ノ非常アルヤ素ヨリ期シ難シ是等万止ムヲ得ザル事變ニ遭ヒ控訴期限ヲ經過シタル時ハ其ノ事情ヲ證據立テ營ヘハ天變地異ハ其地戶長又ハ船中ナラバ船長ノ保證ヲ以テシ疾病ナラバ醫師ノ診斷書ヲ以テシ其他ハ夫々公ケノ證據トナルベキモノヲ添ヘ其理由ヲ申立書ニ添ヘテ差出ス時ハ期限ヲ經過シテ控訴ノ權利ヲ失フモ回復セラルヽヿアルベシ

右ハ事變ノアリタル時ヨリ計ヘテ控訴期限ノ五日以内ニ申立書ヲ差出スモノナリトス斯ク止ムヲ得ザルノ事情ヲ證明スト雖モ控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ會議局ニ於テ控訴ヲ受理ス可カラズト

判決セラレタルトキハ直チニ原裁判ヲ執行セヲルヽモノナリ

[参照] 治三百十五條三百十六條（三十九ページ）

治罪法第十八條　此法律ニ於テ期限ヲ計算スルニ時ヲ以テスル者ハ即時ヨリ起算シ日ヲ以テスル者ハ初日ヲ算入セス若シ最終ノ日休暇ニ當ル時ハ期限ニ算入ス可カラス但期滿免除ノ期限ハ此限ニ在ラス

一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

第十九條　此法律ニ定メタル期限ニハ陸路八里毎ニ一日猶豫ヲ加フ八里ニ滿サル者ト雖モ三里以上ナル時亦同シ

嶋地又ハ外國トノ路程ノ猶豫ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期限ヲ經

過シタル時ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フ可シ

明治十五年二月二日第七號布告

治罪法第十九條第二項海上路程ノ猶豫ハ陸路四里ノ割合ヲ以テ一日ヲ加フルモノト定ム

右奉　勅旨布告候事

第四欵　本案ノ裁判言渡ニ在ラザル控訴

[第二十] 治罪法第二編第一章ノ内

第四十八條　裁判所ハ訴ヲ受ケタル事件ニ付キ自ラ其管轄ナリヤ否ヲ判決スルノ權アリ其判決ニ付テハ本案ノ事件終審ナル可キ場合ト雖モ通常ノ規則ニ從ヒ檢査官其他訴訟關係人ヨリ上訴スルヿヲ得

解 本條ハ裁判管轄ヲ定ムルヿヲ示サレタルモノニシテ孰レノ裁判所ニテモ公訴ヲ受理シタルトキハ其公訴事件ハ其受ケタル裁判所ノ管轄ナリヤ否ハ其裁判所カ自ラ判決スルノ權アルヿヲ謂ヒシモノナリ元來裁判所ハ自ラ訴ヘテ自ラ判決スルハ法理悖リタル者ナレバ茲ニ本條ニ於テ許シタル自ラ判決スルノ權ヲ制裁スルノ文ヲ末文ニ載セラレタリ其判決ニ付テハ云々以下ノ法文卽チ其ノ制裁ナリ

偖テ本條ニ汎ク上訴ナル二字ヲ用ヒラレタレドモ其實ハ控訴ノミニ止リテ上告其他ノ上訴ハ含蓄セザルモノヽ如シ抑モ始審裁判ニ付テハ上告スルヿ能フモ控訴スベカラザルヿハ業ニ既ニ論述シタリシガ今本條ニ於テハ裁判所カ自ラ管轄ナリヤ否ヲ判決シタル時ニハ其ノ裁判所カ其ノ事件ノ終審裁判ヲ爲スヘキ場合タリトモ通常ノ規則ニヨリテ控訴スルヿ能フト云フ特例ヲ置カレタルモノナリ而シテ其本條ニ所謂始審ナルモノハ輕罪裁判所ニ於テ違警罪ノ裁判ヲ爲スヿ如キ輕罪裁判所ハ違警罪ノ終審裁判ヲ爲スノ權アルヲ以テナリ然リト雖モ始審ノ裁判ニ係ル場合ノ控訴ハ右ニノミ限ルモノトス何トナレバ輕罪裁判所ハ違警罪事件ニ付テハ終審裁判ヲ爲スノ權ヲ有スルユヘ之レニ對スル控訴ハ許サレザルモ自ラ管轄ナリヤ否ヲ判決スルニ至リテハ終審ノ權ヲ有スルモノニ非ザルヲ以テナリ

右ニ述ル如キ譯ケナルヲ以テ裁判所カ自ラ管轄ナリヤ否ヲ判決シタルニ對スル控訴ハ始審裁判ノ時ナラバ無論ニシテ終審裁判ノ場合タリトモ輕罪裁判所ニ於テ違警罪ノ終審裁判ヲ爲ス場合ニ限リ管轄ノ判決ヲ控訴裁判所ニ控訴スルヿ能フト云フ理ナル

ベシ然ルニ今茲ニ一ノ注意ヲ仰ク事アリ何ゾヤ控訴ハ同一ノ事件ニ付キ二回爲スヿヲ許スノ理ナキ之レナリ依テ違警罪裁判所ニ於テ爲シタル管轄違ヒニ付キ之レヲ輕罪裁判所ヘ控訴シ輕罪裁判所ニ於テ其終審ノ裁判ヲ爲シタル場合ニハ再ビ控訴裁判所ヘ控訴ス可カラサルノ類之レナリ

[參照] 治二百七十七條二百七十八條（本ページ）

[第二十一] 治罪法第四編第一章ノ内

第二百七十七條　檢察官被告人及ヒ民事擔當人ハ始審終審ヲ問ハス本案ノ裁判言渡アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ公訴受理ス可カラザルノ申立ヲ爲スヿヲ得

裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ管轄違又ハ公訴受理ス可カラサルノ言渡ヲ爲スヿヲ得

第二百七十八條　裁判所ニ於テ前條ノ申立ヲ棄却シタル時ハ本案ノ裁判言渡ヲ待タス直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スヿヲ得此場合ニ於テハ本案辨論ヲ停止ス

[解] 此ノ第二百七十七條二百七十八條ハ前ニ示シタル[第二十一]ナル治罪法第四十八條ノ解釋トモ云フ可キモノニシテ既ニ説明スル如ク裁判所ハ管轄違ナルヤ否ヲ判決スルノ權アリ（第二百七十七條二項）又タ之レニ對シテハ始審ノ裁判ナルトキハ輕罪裁判所ニ於ケル違警罪ノ終審裁判ナルトキニハ直チニ控訴ヲ爲スヿ能フモノニシテ其他ノ終審裁判ナルトキハ直チニ上告スルヿ能フトノヿヲ示サレタリ（第二百七十八條）

右ハ治罪法中ノ正則ナルモノナリ而ノ現行即チ十八年第二號布告ナル變例ヲ以テスルトキハ其第一條ニ於テ[控訴ハ治罪法中本

按ノ裁判言渡前ニ許シタルモノト雖モ總テ本按ノ裁判言渡アリタル後ニアラサレハ之ヲ爲スヿヲ得ス」トアリ依テ治罪法第二百七十八條ノ如ク本案ノ裁判言渡ヲ待タス直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スヿヲ得トアレドモ之レ當分施行セラルヽヿナク是非ニ是等モ本按ノ裁判言渡アルマデハ差扣ヘ居ラズテハナラヌナリ又タ變例ノ第二條ニ於テ「控訴ノ期限内ハ控訴ヲ爲サズシテ直チニ上告ヲ爲スヿヲ得但對手人控訴ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス云々」トアリ依テ治罪法第七十八條ノ如キ控訴ヲ爲スモ上告ヲ爲スモ適意ニ任スベキモノトス

今讀者ノ參考ニ供ヘンタメ公訴受理ス可カラズトスル件々ヲ左ニ示サントス

一被告人ノ死去

二告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ被害者ノ棄權又ハ私和

三確定裁判

四犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止

五大赦

六期滿免除

七公訴ノ成立タサルヿ即チ法律ニ於テ罰セサル事件

八治罪法第三百二十一條ニ定メタル受理ノ原由ヲ缺ギタル事件

九治罪法第三百四十七條ニ定メタル受理ノ原由ヲ缺ギタル事件

十治罪法第三百七十二條ニ定メタル受理ノ原由ヲ缺ギタル事件

十一告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付キ未タ告訴アラザル時

參照 十八年二號布告一條（三ページ）仝第二條（四ページ）治四十八條（四十九ページ）治第九條○刑三百二十九條○刑三百四十四條○刑三百

五十條○刑三百六十一條○刑四百二十六條十二

治罪法第三百二十一條　違警罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ因テ公訴ヲ受理ス

一檢察官ノ請求ニ因リ書記局ヨリ被告人ニ對シ發シタル呼出狀

二豫審判事又ハ上等ノ裁判所ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡

第三百四拾七條　輕罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ因テ公訴ヲ受理ス

一檢察官ノ請求ニ因リ書記局ヨリ被告人ニ對シ發シタル呼出狀

二豫審判事輕罪裁判所會議局又ハ上等ノ裁判所ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡

第三百七十二條　重罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ因テ公訴ヲ受理ス

一豫審判事又ハ輕罪裁判所會議局ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡

二控訴裁判所又ハ大審院ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡

第二十二

治罪法第四編第一章ノ內

第三百二條　辯論中公判ノ手續ニ付キ異議ノ中立アリタル時ハ裁判所ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽キ直チニ之ヲ判決ス可シ但其判決ニ對スル控訴又ハ上告ハ本案ノ裁判言渡アリタル後ニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ得ス

第三百三條　民事擔當人ハ始審終審ヲ問ハス何時ニテモ其訴訟ニ關

係スルヿヲ得

又民事原告人ハ民事擔當人ナシテ其訴訟ニ關係セシムルヿヲ得

若シ異議ノ申立アリタル時ハ其裁判所ニ於テ之ヲ判決ス可シ其判決ニ對シテハ本按ノ裁判言渡ヲ待タス直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スヿヲ得此場合ニ於テハ本按ノ辨論ヲ停止ス

[解]第三百二條ハ檢察官其他訴訟關係人ガ公判ノ辯論中ニ公判ノ手續規則ニ背キタルヲ以テ異議ノ申立ヲ爲シ其異議ノ判決ニ對シ控訴又ハ上告スルヿヲ得ベキヿヲ示サレタルモノナリ第二百七十八條ニ示サレタル管轄違又ハ公訴受理ス可カラザルノ申立ノ判決ニ對シタル控訴又ハ上告ハ裁判言渡ヲ待タスシテ控訴シ又ハ上告スルヿヲ得ルノ正則ナリシガ第三百二條ノ異議ノ判決ニ付テハ本按ノ裁判言渡ノ後ヲデナクテハ控訴又ハ上告スル

ヿ能ハザルモノトセラレタリ該條ニ付テハ現行變例ヲ別ニ引用比較スルニ及ハザルナリ

第三百三條第三項ノ異議ハ第三百二條ノ異議ト異ナリテ該條ハ民事擔當人カ其訴訟ヲ免ルヽト否ト(第一項第二項)ニ付テノ異議ナリ故ニ其判決ニ付テハ本按ノ裁判言渡ヲ待タズ直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スヿ能フモノニテ控訴又ハ上告アリタルトキハ本按ノ辯論ヲ停メラルヽヿトセラレ卽チ第二百七十八條ト同一ノ手續ナリシ然レトモ現行ニテハ變例アルヲ以テ本案ノ裁判言渡ノ後ヲナラデハ控訴スルヿモ上告スルヿモ能ハザルモノトス尙ホ

[第二十一]ヲ參觀ス可シ

[參照]十八年二號布告一條(三ページ)同二條(四ページ)治二百七十七條二百七十八條(五十二ページ)

第五款　裁判ノ執行

第三百九條　本案ノ裁判言渡ニ對スル上訴ノ期限内又上訴アリタル時ハ其判決アルマテ裁判執行ヲ停止ス

[解]訴訟中ノ裁判言渡即チ附帶ノ裁判言渡ハ既ニ第二十一條第二十二條ニ於テモ説明スル如ク其執行ハ裁判確定ノ後ニ爲スベキモノト確定ヲ待タズシテ爲ス可キモノトアリ本按ノ裁判言渡アルマデ何時ニテモ上訴スルヿヲ得ル(第七十八條第七十九條)事件(現行變例ニテハ本按ノ裁判言渡後ナラデハ上訴ヲ許サレズ)ニ付キ直チニ上訴シタル時ノ如キハ裁判確定ノ後ニ執行スベキモノナリ(上訴中本按ノ辯論ヲ停止ヲ以テナリ)又タ本按ノ裁判言渡ヲ待タズシテ上訴スルヿ能フ事件ニテモ本按ノ裁判言渡アルマデ上訴セズ其外第三百二條等ノ如ク本按ノ裁判言渡後ニ非ザレバ上訴スベカラズトセラレタル事件等ハ裁判確定ヲ待タズシテ執行スルモノナリ(異議ノ申立ヲ判決シタルトキハ直チニ判決通リノ執行ヲ爲スト雖モ本按ノ裁判言渡後ニ上訴スルヿヲ得ルノ權アルヲ以テ確定シタルニ非ズ)現行變例ヲ以テスルトキハ附帶裁判言渡ハ必ズ確定ヲ待タズシテ執行スベキヤ變例ノ第一條及ヒ第二十一條第二十二條ニ説明シタルヲ以テ知ルヿヲ得ベシ

右附帶裁判言渡ノ執行ヲ論シ本條ヲ解クノ參觀ニ供ヘクリシガ之ヨリ本條(第三百九條)ニ入リテ本按裁判言渡ノ執行ヲ説明スベシ

本案ノ裁判言渡ハ第一確定ノ後直チニ執行スベキモノト第二確定ノ後相當ノ期限ヲ經過シテ執行スベキモノトアリ

第一裁判確定ノ後直チニ執行スベキモノハ法律ニ特定シタル場合(三百十三條四項ノ類)ヲ除クノ外ハ本條ニ正文セラルヽ如ク上訴ノ有ルト無キトニ拘ハラズ上訴ノ期限即チ控訴ハ五日上告ハ三日(現行ノ變例ニテハ共ニ五日)ノ間ハ裁判ノ執行ハ爲サヽルモノナリ而シテ上訴スルモノアリタル時ハ上訴ノ裁判ガ確定スル迄ハ裁判ノ執行ハ爲サヽルモノナリ

第二確定ノ後チ相當ノ期限ヲ經過シテ執行スベキモノトハ即チ死刑ノ言渡ヲ受ケタルモノ及ヒ大審院判決ノ如キ之レナリ

右ノ内第一ハ即チ常例ニシテ刑ノ言渡ニナリトモ無罪ノ言渡ニナリトモ通ズルモノナレドモ第二ハ特例ニシテ刑ノ言渡(死刑ノ

ミ)ニノミ限ルモノトス

[參照]十八年二號布告一條(三ページ)同二條(三ページ)治二百七十七條七十八條(五十二ページ)三百二條三百三條(五十七ページ)三百十三條四項(四十六ページ)刑十三條○刑十四條○刑十五條

治罪法第四百五十九條　重罪輕罪違警罪ノ刑ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行ス可カラス

第四百六十條　死刑ノ言渡確定シタル時ハ檢察官ヨリ速ニ訴訟書類ヲ司法卿ニ差出ス可シ

司法卿ヨリ死刑ヲ執行ス可キノ命令アリタル時ハ三日内ニ其執行ヲ爲ス可シ

第四百六十一條　死刑ヲ除クノ外刑ノ言渡確定シタル時ハ直チニ之ヲ執行ス可シ

第四百六十九條　賠償及ヒ訴訟關係人ニ償還ス可キ裁判費用ニ付キ其言渡ノ執行ハ通常民事ノ規則ニ從フ

[第二十四] 治罪法第五編第一章ノ内

第四百三十五條　法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ定期内ニ上訴スル者ナクシテ其裁判言渡確定シタル時ハ大審院檢事長ヨリ司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ非常上告ヲ爲スヿヲ得

非常上告アリタル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス可シ

[解] 非常上告ハ法律ノ錯誤ヲ改正スルノ法ニシテ上告ノ期限内又ハ故障控訴ノ期限内ニ是等ノ上訴ヲ爲ス者ナク其裁判確定シタリト雖モ其刑ノ言渡ハ全ク法律ニテ罰セザル所爲ナリシ時又

ハ相當ノ刑ヨリ重キ時ニ大審院檢事長ヨリ爲スモノナリ故ニ既ニ裁判ハ確定シテ執行中ニカヽルモノナレバ訴訟關係人ヨリ一點ノ啄ヲ容ルヽ能ハサル際ニ爲サルヽ被告人利益ノ上告ナリ由シ故障控訴ヲ經タルモノナリトモ上告ノ期限ヲ經過シタルトキハコノ法ニ依ルモノナリ

右ハ法律ノ錯誤ヲ改正スルノ法ナルヲ以テ大審院檢事長ノ外ハ爲スヿ能ハザルモノナレドモ今茲ニ裁判確定ノ後ヲ事實ノ錯誤ヲ改正スルノ法アリ再審ノ訴是レナリ請フ左ニ之レガ治罪法ノ正文ヲ載セ讀者ノ參觀ニ供セン

[參照] 治罪法第四百三十九條　再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スヿヲ得

但裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ得ス

一人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタル後其言渡ノ日ニ當リ殺サレタリト認メラレシ者現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタルノ確証アリタル時

二同一ノ事項ニ付キ共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時

三犯罪アル以前ニ作リタル公正ノ証書ヲ以テ當時其場所ニ在ラサルヿヲ証明シタル時

四被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル時

五公正ノ証書ヲ以テ訴訟書類ニ僞造又ハ錯誤アルヿヲ證明シタル時

第四百四十條　再審ノ訴ヲ爲スヿヲ得可キ者左ノ如シ

一刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官

二刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事長

三大審院檢事長但司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲ス可シ

四刑ノ言渡ヲ受ケタル者

五刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタル時ハ其親屬

第四百四十一條　再審ノ訴ハ刑ノ消滅シタルニ拘ハラス何時ニテモ之ヲ爲スヿヲ得

第六款　雜則

第二拾五治罪法第五編第一章ノ内

第四百三拾三條　大審院ニ於テ破毀シタル事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス可キ時ハ原裁判所ニ接近シタル同等ノ裁判所ヲ定示

ス可シ其單ニ私訴ニ係ル事件ハ之ヲ民事裁判所ニ移ス可シ

第四百三十四條　法律ニ係ル大審院ノ判決ハ確定ノ者トス

大審院ヨリ送付ヲ受ケタル裁判所ノ裁判言渡ニ對シテハ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ上告ヲ爲スヿヲ得

〔解〕先ツ大審院ニ於テ破毀シタル事件ヲ移スニハ原裁判所ト同等ノ裁判所ヲ定示スベシトスル其ノ同等ノ裁判所トハ孰レヲ指スヲヲ左ニ示サン

一違警罪事件ニ付輕罪裁判所ニ控訴ヲ爲シ其ノ終審裁判所ニ對シ上告シテ破毀セラレタルトキハ控訴ヲ受ケタル輕罪裁判所カ原裁判所ナルユヘ接近地ノ同等ナル輕罪裁判所ニ移サルヽナリ（ヘハ大阪輕罪裁判所ニ於テ控訴ニカヽル終審裁判ヲ爲シタルトキナラハ神戸又ハ京都又ハ和歌山ノ輕罪裁判所ヘ移サルヽノ類ナリ（變例ニテハ違警罪ノ控訴ヲ許サレズ上告モ許サレザルユヘ本項ハ當分用ナキモノナリ）

二輕罪事件ニ付キ控訴裁判所ニ控訴ヲ爲シ其ノ終審裁判言渡ニ對シ上告シテ破毀セラレタルトキハ控訴ヲ受ケタル控訴裁判所ハ卽チ原裁判所ナルユヘ接近地ノ同等ナル控訴裁判所ニ移サルヽナリ（ヘハ廣嶋控訴裁判所カ原裁判所ナルトキハ大坂又ハ長崎ノ控訴裁判所ヘ移サルヽノ類ナリ（現行ノ變例ニモ本項ハ適用ス）

三重罪事件ニハ控訴ヲ許サヾレズ故ニ重罪裁判所ニ於テ爲シタル重罪ノ裁判ハ終審ナリコノ終審裁判ニ對シ上告シテ破毀セラレタルトキハ其ノ重罪裁判所ニ接近地ノ同等ナル重罪裁判所ニ移サルヽナリ（ヘハ高知重罪裁判カ原裁判所ナルトキハ德

嶋又ハ松山ノ重罪裁判所ヘ移サルヽナリ(現行ナリ)

四現行變例ニ於テ輕罪ノ言渡ニ對シ控訴スルヿナク直チニ上告シタルトキ(十八年二號布告二條)ハ輕罪裁判所又ハ其支廳カ原裁判所ナルユヘ本廳支廳孰レヘナリトモ移サルヽナリ但シ本支廳間互ニ移サルヽヿハナカルベシ譬ヘバ明石治安裁判所ニ於テ神戸輕罪裁判所ヲ開キテ爲シタル輕罪ニカヽルトキハ岡山輕罪裁判所津山支廳又ハ大坂輕罪裁判所ヘ移サルヽノ類而ノ廣嶋輕罪裁判所尾道支廳ニテ爲シタル輕罪ニカヽルトキハ岡山輕罪裁判所又ハ松山輕罪裁判所又ハ其高松支廳又ハ松江輕罪裁判所ヘ移サルヽノ類ナリ

五現行變例ニ於テ治安裁判所ニテ爲シタル輕罪ノ裁判ニ對シ輕罪裁判所ヘ控訴シタルトキ其終審裁判ニ對シ上告シテ破毀セ

ラレ佗ノ裁判所ヘ移サルヽトキハ同一ナル接近ノ輕罪裁判所ヘ移サルヽモノナリ但シ支廳ハ控訴ヲ裁判スルノ權ナキユヘ支廳ヘ移サルヽヿハナカルベシ譬ヘバ岡山輕罪裁判所カ原裁判所ナルトキハ神戸輕罪裁判所姫路支廳廣嶋輕罪裁判所尾道支廳松山輕罪裁判所高松支廳ノ中ヘ移サルヽトキハ接近ナルベケレドモ支廳ニ於テ控訴ヲ裁判スルノ權ナキユヘ神戸輕罪裁判所廣嶋輕罪裁判所松江輕罪裁判所鳥取輕罪裁判所ノ中ヘ移サルヽヲ以テ至當トスルノ類ナリ

又タ公訴ニ附帶シテ爲シタル私訴ノ上告ヲ破毀シテ佗ノ同等ナル裁判所ヘ移サルヽトキハ前五項ト同シケレドモ公訴ノ上告ナクシテ單ニ私訴ノミ上告ニ係ルトキハ終審裁判ヲ爲シタルト同等ナル民事ノ裁判所ニ移サルヽモノナリ

法律ニカヽル大審院ノ判決ハ直チニ確定スルモノナレドモ佗ノ裁判所ヘ移シテ更ニ審理セシムルモノハ大審院ノ判決ヲ以テ未ダ確定シタリト爲ス可カラズ又タ大審院ニ於テ移サレタル裁判所ノ裁判ハ通常ノ上告ニ付キ定メラレタル規則ニヨリ再ビ上告スルヿ能フモノナレドモ元ト終審裁判ヲ經タルモノナルユヘ更ニ控訴スルヿハ能ハザルモノトス

現行變例ニヨリテ控訴ヲ經ザル上告ヲ破毀セラレ佗ノ裁判所ヘ移サレ其ノ裁判所ノ裁判ニ服セザルモ控訴スルヿ能ハズ再上告ハ爲シ能フナリ尙ホ十八年第二號布告第二條（四ページ）ヲ參照スベシ

第二節　違警罪ノ控訴

編者白　違警罪ノ控訴ハ當分ノ間施行セサルヿハ十八年第二號布告（一ページ）十四年第四十四號布告（十六ページ）ニテ明カナリ故ニ現行ノモノニアラサルヲ以テ茲ニ載スルモ益ナキ如シト雖モ元ト此ノ書ヲ著述スル一時ノ射利ニ非ズシテ永久ノ參考トナスモノナレバ敢テ違警罪ニ關スル控訴ノ法文ヲ左ニ載セ別ニ之レガ説解ヲ爲サズ看者請フ著者ノ勞ヲ尤ムルヿ勿レ

第二十六　治罪法第四編第二章ノ内

第三百三十八條　違警罪裁判所ノ裁判言渡ニ對シテハ左ノ區別ニ從ヒ輕罪裁判所ニ控訴スルヿヲ得

一　被告人ハ勾留ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時

二　民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ要償ニ付テノ言渡民事上治

安裁判所ノ終審ノ金額ヲ超過シタル時

三 檢察官其他訴訟關係人ハ上ニ記載シタル原由アラサル時ト雖モ管轄違越權擬律ノ錯誤又ハ無効ノ記載アル規則ニ背キタル時

[參照]十四年四十四號布告十四年八十號布告（十六ページ）十八年二號布告文（一ページ）

第三百三十九條　控訴ヲ爲サントスル者ハ原裁判所ノ書記局ニ其申立書ヲ差出ス可シ但其申立ノ期限ハ對審裁判ニ付テノ言渡ヨリ三日內又闕席裁判ニ付キ故障アラサル時ハ本人又ハ其住所ニ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日內トス

控訴ヲ爲スノ申立アリタル時ハ書記ヨリ其旨ヲ對手人ニ通知ス可シ

[參照]十四年四拾四號布告十四年八十號布告（十六ページ）十八年二號布告文（一ページ）治三百六十八條（九十一ページ）

第三百四十條　訴訟ニ關スル一切ノ書類ハ檢察官ヨリ控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ書記局ニ之ヲ送致ス可シ

若シ檢察官控訴ノ申立人又ハ對手人ナル時ハ控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ檢察官ニ其意見書ヲ差出ス可シ

[參照]十四年四十四號布告八十號布告（拾六ページ）拾八年二號布告文（一ページ）治三百六拾八條（九拾一ページ）

第三百四十一條　控訴ヲ受ク可キ裁判所ニ於テハ書記局ヨリ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發シタル後其裁判ニ取掛ル可シ

呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

證人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ

[参照] 十四年四拾四號布告八拾號布告（拾六ページ）拾八年二號布告文（一ページ）治三百六拾八條（九拾一ページ）

第三百四拾二條　控訴ノ對手人ハ其裁判言渡アルヤテ何時ニテモ附帶ノ控訴ヲ爲スヿヲ得但附帶ノ控訴ハ公廷ニ於テ直チニ之ヲ申立ルヿヲ得

[参照] 拾四年四拾四號布告八拾號布告（拾六ページ）拾八年二號布告文（一ページ）治三百六拾八條（九拾一ページ）

第三百四拾三條　控訴ニ係ル事件ハ輕罪ノ裁判ヲ爲スニ付キ定メタル規則ニ從ヒ之ヲ裁判ス可シ

檢察官其他訴訟關係人ハ裁判長ノ允許ヲ得ルニ非サレハ新ナル証人又ハ始審ニ於テ陳述ヲタル証人ヲ呼出スヿヲ得ス

[参照] 十四年四拾四號布告八拾號布告（拾六ページ）拾八年二號布告文（一ページ）治第四編第一章ノ内（三拾四ページ）

第三百四拾四條　控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ原裁判言渡ヲ認可スルノ言渡ヲ爲シ又ハ之ヲ取消シ更ニ裁判言渡ヲ爲ス可シ

被告人ノミ控訴ヲ爲シタル時ハ原裁判言渡ヨリ重キ刑ヲ言渡スヿヲ得ス

私訴ニ付テノ裁判ハ通常民事ノ規則ニ從フ

[参照] 十四年四拾四號布告八拾號布告（十六ページ）十八年二號布告文（一ページ）治三百六拾八條（九拾一ページ）

第三百四拾五條　第三百三拾一條以下ノ規則ハ控訴ノ闕席裁判ニ付テモ亦之ヲ適用ス

[参照] 拾四年四拾四號布告八拾號布告（拾六ページ）拾八年二號布告文（一ページ）

第三百四拾六條　檢察官其他訴訟關係人ハ違警罪事件ノ終審ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スヿヲ得

參照　十四年四拾四號布告八拾號布告（拾六ページ）十八年二號布告（一ページ）拾八年二號布告二條（四ページ）

第三節　輕罪ノ控訴

餘言　茲ニ控訴ヲ爲スベキ二箇ノ區別ヲ餘言セントス蓋シ這ハ第一節ナル通則ニ兼スベキモノナルベケレトモ現行ノ變例ニテハ輕罪ノミ控訴ヲ許サレタルモノナレハ本節ヲ以テ現行ノ最モ用アルモノトス依テ茲ニハ餘言スルナリ

控訴ヲ爲ス可キ二個ノ區別トハ何ゾヤ一ハ人ニ付テノ

控訴ニシテ一ハ原由ニ付テノ控訴ナリ請フ之レヲ左ニ說明セン

第一人ニ付テノ控訴ハ

甲檢察官ニ於テハ違警罪ノ裁判言渡ニ付テハ原由ニ付テノ控訴ヲ除クノ外控訴スルヿ能ハザルモノトス（第三百三十八條）蓋シ違警罪ハ微罪ナルヲ以テ被告人ノ滿足スルヨリハ強テ覆審ヲ求ムルモ益ナカルヘシ輕罪ノ裁判言渡ニ付テハ第三百六十五條ノ一ニ定メラレタル如ク免訴ノ言渡無罪ノ言渡刑ノ言渡ノ孰レナルヲ問ハズ又タ違警罪ナリトシテ刑ノ言渡アリタルトキ其事件ヲ輕罪ナリト思料スル時等渾テ違警罪ヲ除クノ外ハ控訴シテ覆審ヲ求ム

ルヿヲ得ルモノナリトス

乙被告人ニ於テハ違警罪ノ裁判言渡ニ付テハ科料ノ言渡ヲ除クノ外拘留ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時ニ當リ控訴スルヿヲ得ルモノナリ（第三百三十八條ノ一）蓋シ科料ハ實ニ金額ノ少キモノナルユヘ之レニ控訴ヲ許スモ實益ナクシテ却テ損亡ヲ致スヲ以テナリ輕罪ノ裁判言渡ニ付テハ輕罪裁判所ニテ違警罪ノ裁判言渡ヲ除クノ外（輕罪裁判所ニ於テ爲シタル違警罪ノ裁判ハ終審ナリ）刑ノ言渡ヲ受ケタル時（罰金ニテモ禁錮ニテモ）ハ控訴シテ覆審ヲ求ムルヿヲ得ルモノナリトス（第三百六十五條ノ二）

丙民事原告人被告人民事擔當人ニ於テハ（私訴ノ時ナリ）私訴ノ言渡ニ付キ要償セシ金額又ハ言渡シタル金額カ其裁判所ノ權限ナル終審裁判ノ金額ニ超過シタル時ニ當リ控訴シテ覆審ヲ求ムルヿ能フモノナリ但シ要償スル金額カ終審裁判ノ金額ニ超過スルトモ言渡ノ金額カ終審裁判ノ金額ニ超過セザル時ハ民事原告人ニアラズンハ控訴スルヿ能ハザル可シ之レ法理ノ然ラシムル所ニテ强チ法文ニ拘泥スベカラザルモノトス（第三百三十八條ノ二第三百六十五條ノ三）

第二原由ニ付テノ控訴ハ

甲管轄違ニ對シ控訴アリタル時ニハ先ヅ其ノ原由ノ

ミニ付テ新ニ辯論ヲ爲シ之レヲ判決スルニアルナリ(第三百三十八條ノ三第三百六十五條ノ四)

乙越權ナルヲ以テ控訴アリタル時ニハ先ツ其ノ越權ノ点ノミニ付辯論ヲ爲サシメテ果メ越權ナリトセハ本按ノ事件ヲ更メテ辯論セシムルモノナリトス(第三百三十八條ノ三第三百六十五條ノ四)

丙擬律ノ錯誤ナルヲ以テ控訴アリタル時ニハ其ノ法律ノ適用如何ノミヲ新ニ辯論ナサシメ而メコノ点ニ付テノ判決ヲ下スモノナリ(第三百三拾八條ノ三第三百六拾五條ノ四)

丁無效ノ記載アル規則ニ背キタルヲ以テ控訴アリタル時ニハ先ツ無效ノ規則ニ背キタルヤ否ノ点ノミニ付辯論ヲ爲サシメ果メ治罪法第六條第二百三拾六條等ノ規則ニ反シタリトセハ更メテ本案事件ニ付キ辯論セシムルモノナリトス(第三百三拾八條ノ三第三百六拾五條ノ四)

以上四ノ原由ニ付テ檢察官其他訴訟關係人ノ誰レニテモ控訴シ能フモノトス(第三百三拾八條ノ三第三百六拾五條ノ四)

右ヲ約シテ云フトキハ人ニ付テノ控訴ハ本按ノ事件ニ付キ新ニ辯論スルモノニシテ原由ニ付テノ控訴ハ先ヅ其ノ控訴ニカヽル原由ノミヲ新クニ辯論スベキモノナリトス尙彼ノ本案ノ裁判言渡外ノ控訴モ亦タ全ク原由ニ付テノ控訴ナリ

[餘言第二]輕罪裁判言渡ノ控訴ニ付キ十八年第二號布告第五條（八ページ）ヲ以テ之レガ變例卽チ治安裁判所ニ於テ爲シタル輕罪裁判ノ控訴ノ事ヲ示サレタリ今本條ヲ說明スルニ當リ一々之レガ解ヲ下スハ啻ニ冗長ニ失スルノ嫌ナキヲ保ス可カラザルユヘ左ニ之レヲ畧陳セソトス但シ變例ノ第五條下ニ於テ詳細ニ說明ハ爲シタルナリ

治罪法中輕罪ノ控訴ニ付テ定メタル規則ニ從ヒ裁スベシトノ明文アルヨリハ渾テ本節下ニ載スル治罪法ノ規則ニ依ル可シ（裁判言渡ニノミ對スルモノニシテ其他訴訟中ノ控訴ハ十四年第五十四號布告（十三ページ）及ヒ同年第七十一號布告（十四ページ）ヲ以テ上訴ヲ許サレザルヿトセラレタリ（只タコノ變例卽チ治安裁判所ニ於テ爲シタル輕罪裁判ノ控訴ニ付テハ本條中「控訴裁判所」トアルヲ輕罪裁判所（支廳ハ除ク）ト見做シ「輕罪裁判所」トアルヲ治安裁判所ト見做シ輕罪裁判所檢事トアルヲ警部ト見做シ檢事長トアルヲ輕罪裁判所ノ上席檢事ト見做スノ類ナリ故ニ各條下ニ其別ヲ說明セス宜シク推閱スベシ

[第二十七]治罪法第四編第三章ノ內

第三百六十五條　檢察官其他訴訟關係人ハ左ノ區別ニ從ヒ輕罪裁判所ノ裁判言渡ニ對シ控訴裁判所ニ控訴スルヿヲ得

一　檢察官ハ無罪免訴又ハ刑ノ言渡アリタル時但違警罪トシテ言渡アリタル場合ニ於テハ其事件ヲ輕罪ナリトスル時

二被告人ハ違警罪ニ付テノ言渡ヲ除クノ外刑ノ言渡ヲ受ケタル時

三民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ要償ニ付テノ言渡民事上始審裁判所ノ終審ノ金額ヲ超過シタル時

四檢察官其他訴訟關係人ハ管轄違越權擬律ノ錯誤又ハ無効ノ記載アル規則ニ背キタル時

一解一檢察官及ヒ訴訟關係人ハ治安裁判所ニ於テ爲シタル輕罪ノ裁判言渡ニ對シテハ輕罪裁判所ヘ輕罪裁判所ニ於テ爲シタル輕罪ノ裁判言渡ニ對シテハ控訴裁判所ヘ左ノ區別ニヨリテ控訴ヲ爲シ覆審卽チ調ベ直シヲ求ムルヿ能フナリ

其一ハ檢察官ノミニ限リタル控訴スルノ事件ヲ示サレタルモノニシテ卽チ人ニ付テノ控訴ナリ餘言第一甲ヲ參看スベシ（七十九ページ）

其二ハ被告人ノミニ限リタル公訴ニ對スルノ控訴シ能フ事件ヲ示サレタルモノニシテ卽チ人ニ付テノ控訴ナリ餘言第一乙ヲ參看スベシ（八十ページ）

其三ハ民事原告人被告人民事擔當人（檢察官ヲ除ク）ノミニ限リタル私訴ニ對スルノ控訴シ能フ事件ヲ示サレタルモノニシテ卽チ人ニ付テノ控訴ナリ餘言第一丙ヲ參看スベシ（八十一ページ）

其四ハ檢察官及ヒ訴訟關係人卽チ都テ公訴私訴ノ別ナク該件ニ關係スル人ハ控訴シ能フ件々ヲ示サレタルモノニシテ右第一ヨリ第三迄ノ件ニ相當セズトモ本項ニ明示セラレタル原由ノ生ゼタル時ハ控訴シ能フモノナリ之レ原由ニ付テノ控訴ニシテ餘言第二甲ヨリ丁迄ヲ參看スヘシ（八十一ページ）

控訴ト上告トノ別ハ既ニ本編第一章第二節ニモ說明スル如ク控

訴ハ事實ノ覆審ヲ求ムルモノニシテ上告ハ法律ノ統一ヲ請フモノナレハ大ニ其反對ノ点アルヲ見ルモノナリ故ニ控訴ニ於テハ上告ノ如キ書類裁判ニアラズシテ對審裁判ナリ依テ第三百三十八條第一第二第三百六十五條第一第二第三ノ場合ニ於テハ控訴ノ申立ヲ爲スニ其原由ヲ記スルニ及ハズ單ニ原裁判ハ不當ナルニヨリ控訴スルトノ事ヲ申立ルノミニテ宜シトス之レ人ニ付テハ控訴ナルヲ以テナリ又タ第三百三十八條第三百六十五條第一ノ但書第四及ヒ訴訟中（附帶ナリ）ノ控訴ノ場合ニハタトヘ書類裁判ニアラズトモ控訴スヘキ原由ヲ申立ザルヲ得ズ之レ原由ニ付テハ控訴ナルヲ以テナリ

第三百六十六條　控訴ハ裁判言渡アリタルヨリ五日内ニ之ヲ爲スヲ得

闕席裁判ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ爲スヲ得但第三百五十六條ノ場合ニ於テハ五日内ニ之ヲ爲スヲ可シ

解　本條ハ控訴ノ期限内ヲ示サレタルモノニシテ譬ヘハ二月一日ニ裁判言渡アリタルトキハ其翌日ヨリ計ヘ六日迄デヲ限内トス七日ニ至ラハ控訴ヲ爲スノ權ヲ失ヒ裁判確定スルナリ但シ其ノ最終ノ日即チ六日ガ休暇日ニ當ルトキハ其日ヲ除キ七日ヲ以テ最終ノ日トナシ八日ニ至テ控訴ノ權ヲ失フヿトス尤モ休暇ノ日除クハ最終ノ日ニ限ルモノニテ期限中ニ休暇日ガアリタレハトテ之レヲ除クモノニハ非ザルナリ

第二項ハ第一項ノ特例ニシテ闕席ノマヽ裁判ヲ受ケタルモノハ刑ノ期滿免除即チ死刑ハ三十年無期徒流刑ハ二十五年有期徒流

刑ハ二十年。重懲役重禁獄ハ十五年。輕懲役輕禁獄ハ十年。禁錮罰金ハ七年。拘留科料(科料ハ除ク)ハ一年ニ期限マデハ何時ニテモ故障ヲ爲スノ項ヲ踏マズシテ突出ニ控訴スル能フモノナリ(闕席裁判ニ對シテハ故障スルヲ順ナリトス)但シ治罪法第三百五十六條ノ各項ニ係ルトキハ五日以内ニ控訴スベキモノトス

[參照] 十八年二號布告二條(六ページ) 治三百五十六條(四十四ページ) 治三百十二條三百十三條(四十五ページ) 治十八條(四十八ページ) 治十九條二十條(四十九ページ) 十五年七號布告(四十九ページ) 刑五十八條乃至六十二條

第三百六十八條　第三百三十九條ヨリ第三百四十二條マテ及ヒ第三百四十四條ノ規則ハ此章ニモ亦之ヲ適用ス

[解] 本條ニ引用スル各條ハ違警罪ノ控訴ニカヽル條件ニシテ既ニ本編第二章第二節(七十四ページヨリ七十七ページマテ)ニ正條ヲ載セタレバ今茲ニハ類ニヨリ之レガ解說ヲ輕罪ノ控訴ニ適シテ左ニ示サントス

第三百三十九條第三百四十條ハ控訴ノ申立及ヒ之レヲ受ケタル後ノ手續ヲ示サレタルモノナリ

控訴ヲ爲スニハ申立書ヲ差出スノミニシテ上告又ハ故障ノ如ク趣意書ヲ差出スニ及ハズ又タ對手人モ答辨書ヲ差出スニ及バサルナリ但シ檢察官ガ控訴ノ申立人又ハ對手人ナルトキハ控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ檢察官ニ其ノ事件ニ付テノ意見ヲ認メ差出スモノナリトス其趣意書答辨書ヲ要セサルモノハ控訴ハ書類裁判ニアラズシテ對審裁判ニアレバナリ

人ニ付テハ控訴中立書ノ文例左ノ如シ(公訴ニ對シ被告人對審ナルトキ)

控訴申立書

何府(縣)何區(何國何郡)何町(何村)
何番地平民(士族)何業
何野被兵衛

右私儀何々ノ被告事件ニ付明治何年何月何日何地輕罪裁判所(何地治安裁判所ニ何地輕罪裁判所ヲ開キ)ニ於テ對審ノ上何々(刑期金額)ニ處セラルヽ旨言渡サレタル所右ハ不當ノ裁判言渡ナリト思料スルヲ以テ治罪法第三百六拾五條第二ニ依リ今般控訴仕候間此段申立候也

明治何年
何月何日

右
何野何兵衛印

何地輕罪裁判所
判事氏名殿
又ハ
何地治安裁判所長
判事氏名殿

私訴ニ係ルモ大同小異ナルユヘ略ス尚次項ナル民事原告人ノ控訴申立書ノ例ヲ斟酌スベシ

附帶ノ公訴申立書モ亦タ右ニ準スベシ

人ニ付テハ控訴申立書私訴ニ係ル分民事原告人ノ爲ス文例左ノ如シ

控訴申立書

何府(縣)何區(何國何郡)何町(何村)
何番地平民(士族)何業
民事原告人　何野原兵衛
何府(縣)何國何郡(何區)何村(何町)
何番地士族(平民)何業
被告人　何野被兵衛

右ニ對シ何々事件附帶ノ私訴ニ付キ明治何年何月何日何地輕罪裁判所ニ於テ爲サレタル私訴裁判ノ言渡ハ不當ナリト思料スルヲ以テ治罪法第三百六十五條第三ニ依リ今般控訴仕候間此段申立候也

明治何年　右

何月何日
何地輕罪裁判所長
判事氏名殿

何野原兵衛印

民事擔當人ノ爲ス控訴モ右ニ準ズベシ
附帶ノ申立ニ於ケル亦タ大同小異ナリ
原由ニ付テ被告人ノ爲ス控訴申立書ノ文例左ノ如シ但シ公訴ニ對スル分ナリ

控訴申立書

何縣(府)何國何郡(何區)何村(何町)
何番地平民(士族)何業

被告人　何野被兵衛

右私儀何々ノ被告事件ニ付明治何年何月何日何地輕罪裁判ニ於テ對審ノ上言渡サレタル裁判ハ越權ノ處分ニ出テタルモノト思料スルヲ以テ治罪法第三百六十五條第四ニ依リ今般控訴仕候間此段申立候也

明治何年
何月何日　右　何野被兵衛印

何地輕罪裁判所長
判事氏名殿

右ノ外管轄違。擅律ノ錯誤。無効ノ記載アル規則ニ背キタル時等ノ控訴申立モ右ニ準シ越權ノ二字ヲ佗ノ原由ニ書スルノ異アルノミトス

原由ニ付テノ附帶ノ控訴モ亦タ右ニ準スベシ

民事原告人民事擔當人等ノ爲ス可キ原由ニ付テノ控訴モ右ニ準シ尙佗ノ文例ヲ斟酌スベシ

本按ノ裁判言渡ニアラサル卽チ訴訟中(辯論中)ノ控訴ハ皆ナ原由ニ付テノ控訴ニシテ申立書ノ如キモ概チ右ノ三文例ニ準ズルモノトス今一々之レヲ載スルハ本書著述ノ趣意ニ非ザルユヘ茲ニ畧ス

右ノ申立書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出スモノトス(治罪法ノ法文ニ二通ヲ要スルト云フヿナキユヘ一通ニテヨロシカルベシ)然ルトキハ其ノ申立ノ次第ヲ書記ヨリ速カニ對手人ニ通知スルモノナリ偖テ茲ニ對手人トハ誰レヲ指スモノナル乎左ニ之レヲ畧述

セン

第一檢察官ノ對手人ハ被告人ナリ

第二被告人ノ對手人ハ公訴ニ付テハ檢察官私訴ニ付テハ民事原告人ナリ

第三民事原告人ノ對手人ハ被告人及ヒ民事搭當人ナリ

第四民事搭當人ノ對手人ハ民事原告人ナリ

右ノ如ク申立書ヲ差出シ書記ヨリ對手人ニ通知シタル後ヲ原裁判所ノ檢察官ハ控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ書記ニ一件書類ヲ一切送致セラルヽナリ

參照 治三百三十九條（七十四ページ）治三百四十條（七十五ページ）

第三百四十一條ハ呼出狀ノ送達ニカヽル手續ヲ示サレタルモノナリ

控訴ヲ受ク可キ裁判所ニ一件ノ書類）送達ヲ受ケタルトキハ相當ナル裁判所ノ手續ヲ經由シ書記局ヨリハ輕罪ノ公判ニ於ケルト同一ノ猶豫日ヲ置キ訴訟ニ關係セシ人々ニ呼出狀ヲ發スルモノトス卽チ訴訟關係人ヲ呼出スニハ呼出狀ノ送達ヲ受ケシトキト出廷トノ間二日ノ猶豫アル可ク證人ヲ呼出スニハ呼出狀ノ送達ヲ受ケシトキト出廷トノ間一日ノ猶豫アルベキモノトス

參照 治三百四十一條（七十五ページ）

第三百四十二條ハ控訴ノ對手人ガ何時ニテモ附帶ノ控訴ヲ爲スヿ能フト云フヲ示サンタルモノナリ

檢察官又ハ訴訟關係人ガ或ル控訴ヲ爲シタルトキニ當リ其ノ對手人タル訴訟關係人又ハ檢察官ガ同一事件ニ付キ別ニ控訴スルヲ附帶ノ控訴ト云フ附帶ノ控訴ハ本案ノ控訴中其ノ裁判言渡ア

ルマデハ何時タリトモ爲スヿ能フモノニシテ附帶ノ控訴ニ付テハ別ニ原裁判所ヘ申立ヲ爲スニ及バス又タ書ニ面テ申立ルニモ及バス公廷ニ於テ直チニ口頭ヲ以テ申立ルヿ能フモノナリトス但シ別ニ書面ニテ申立ルモ差支ヘナカルベキナリ

[参照]治三百四十二條（七十六ページ）

第三百四十四條ハ控訴ヲ受ケタル裁判所ノ判決及ヒ私訴裁判ノ事ヲ示サレタルモノナリ

第一控訴ハ事實ノ覆審ヲ爲スベキモノナルユヘ該一件ニ關シテハ如何ナル事ヲモ調ベ直スベキモノヽ如シト雖ヒ決シテ然ラズ只タ控訴ヲ爲シタル部分及ヒ其ノ部分ガ不當ナルユヘ夫レガタメ影響ノ及ボシタル部分ニ非ザレバ裁判スルヿ能ハザルモノナリ但シ公ケノ秩序ニ關スル條件ハ此限リニ非ス

第二控訴ヲ受ケタル部分ト雖ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ採用シ又ハ幾部ヲ採用シ或ハ全部ヲ取消シテ更ニ言渡ヲナシ又ハ幾部ヲ取消シテ更ニ言渡ヲ爲スモノナリ但シ控訴ヲ受ケザル分部ハ素ヨリ裁判スル限リニ非ス

第三控訴ヲ受ケタル部分ト雖ヒ原裁判言渡ヲ採用シタルトキハ原裁判言渡ノ効力ハ既往ニ及ブモノナリ

第四控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ渾テ輕罪公判ノ手續ヲ履ムモノナリ但シ第三百六十九條ノ時ハ此ノ限ニ在ラス

第五被告人ヨリ控訴シタルトキハ如何ナル事實ヲ發見スルトモ原裁判所ニテ言渡シタル刑ヨリ重キ刑ハ言渡スベカラザルモノトス之レニ反スルトキハ控訴ノ原則ニ悖ルヲ以テナリ

第六檢察官ヨリ控訴シタルトキハ公ケノ秩序ニ關スルヨリハ原

裁判言渡ヨリ或ハ重ク或ハ輕キ刑ヲ言渡スヿアルベシ

第七私訴ニ付テノ控訴ヲ爲スニハ通常ノ民事規則ニヨルモノナリトス

参照 治三百四十四條（七十七ページ）

第三百六十九條　輕罪裁判所檢事ノ控訴又ハ檢事長ノ附帶ノ控訴アリタル場合ニ於テ被告事件ヲ重罪ナリトスル時ハ第二百五十五條ノ規則ニ從ヒ會議局ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス可シ

解 被告人ノ控訴ニカヽルトキハ如何ナル事實ヲ發見スルモ原裁判所ニ於テ言渡シタル刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スヘカラザルヿハ既ニ説明シタリシガ玆ニ原裁判所ノ檢事ヨリ控訴ヲ爲スカ控訴裁判所ノ檢事長ヨリ附帶ノ控訴ヲ爲シタルトキカニハ原裁判言渡ヨリモ重キ刑ニ處スルヿアルヿナモ亦タ説明シタリ是等檢事

又ハ檢事長ヨリ控訴又ハ附帶ノ控訴アリタル場合ニ控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ被告事件ガ重罪ナリトスル時ニハ其裁判所ハ其事件ヲ其裁判所ノ會議局ニ送ルベキ言渡ヲ爲シ會議局ニ於テハ取調ヲ爲シタル上ニテ相當ノ言渡ヲ爲スモノナリトス其手續ハ第二百五十五條ノ規則ニ依ルナリ

参照 治罪法第二百五十五條　會議局ニ於テ故障ノ取調中共犯ノ起訴ヲ受ケサル者アルヿ附帶ノ犯罪ニ付キ豫審ヲ受ケサル者アルヿヲ發見シタル時ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲シ其報告書ヲ差出サシム可シ

檢事ハ意見書ヲ差出ス可シ

會議局ニ於テハ報告書其他訴訟書類ニ依リ故障ト共ニ之ヲ判決ス可シ

第三百七十條　控訴ノ闕席裁判及ヒ其故障ニ付テハ始審ノ闕席裁判及ヒ其故障ニ付キ定メタル規則ニ從フ

解　本條ハ都テ始審ノ裁判ト同一ナルユヘ別ニ説明セズ只タ一ノ例外タルヘキハ被告人カ控訴シテ自ラ闕席シタルトキハ全ク控訴ノ効ヲ失フヘキ譯合ナルユヘ該控訴ハ必ズ棄却セラルヘシ其他別ニ解カズ參照ヲ見テ知ルヘシ

參照　治二百六十九條○治二百七十條○治二百七十一條○治三百十二條○治三百十三條○治三百三十一條○治三百三十二條○治三百三十三條○治三百三十四條○治三百五十四條○治三百五十五條○治三百五十六條

第三百七十一條　檢察官其他訴訟關係人ハ輕罪裁判所ノ終審ノ對審裁判言渡及ヒ控訴裁判所ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スヿヲ得

解　上告ニ付テハ治罪法ノ正則ト現行ノ變例トアリ請フ左ニ之ヲ各別ニ説明セントス

正則ニ於テハ終審裁判ヲ經タル者ニ非ザレハ上告スルヿ能ハズ而メ一二ノ事件(公廷内ノ犯罪ヲ裁判シタル時ノ如シ)ヲ除クノ外ハ違警罪及ヒ輕罪ノ公判ハ始審ナルユヘ控訴ヲ經ズシテ直チニ上告スルヿハ能ハザルモノトス又タ上告ハ對審裁判ニ非ザレハ之レヲ爲スヿヲ得ス何トナレハ闕席裁判ニテハ事實ヲ盡スヿ能ハザルヲ以テナリ茲ニ闕席トハ訴訟關係人カ悉ク闕席シタルヲ指スモノニアラズ只タ或ル闕席シタル者ニ對シテノ稱ナルユヘ其ノ闕席セザリシモノハ佗ニ闕席者アルトモ上告スルヿ能フモノナリ

現行ノ變例ニ於テハ闕席ニカヽル分ハ正則ト同シカルベケレト

モ終審裁判ハ、經ズトモ始審裁判ニ對シテモ終審裁判ニ對シテモ隨意ニ上告スルヿ能フヿトセラレタリ十八年第二號布告第二條ニ就テ知ルベシ

[參照] 十八年二號布告第二條（六ページ）

第四節　控訴スルヿヲ得ザル條件

第一欵　証人鑑定人

[第二十八] 治罪法第三編第三章第六節ノ内

第百七十六條　豫審判事ハ前二條ニ定メタル差支ノ場合ヲ除クノ外証人呼出ニ應セサル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シ但其言渡ニ對シテハ故障及ヒ控訴ヲ許サス（以下二項ハ略ス）

第百八十三條　証人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ陳述ヲ肯セサル時ハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第百八十條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其言渡ニ對シテハ故障及ヒ控訴ヲ許サス（次項ハ略ス）

第百八十五條　豫審判事ハ証人ノ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ必要ナリトスル時ハ重罪輕罪ノ犯所又ハ其他ノ場所ニ同行スルヿヲ得若シ証人同行スルヿヲ肯セサル時ハ第百七十六條ノ規則ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ

[解] 此ノ三ケ條ハ豫審ニ於テ証人ニ科スル罰金ノ事ヲ示サレタルモノニシテ是等ノ時ニハ其ノ言渡ニ不服ナレバトテ上告スルノ外控訴スルヿハ能ハザルモノナリ

[第二十九] 治罪法第三編第三章第七節ノ内

第百九十二條二項　鑑定人呼出ニ應セサル時ハ第百七十六條ノ規則ニ

從ヒ處分ス可シ但勾引狀ヲ發スルヿヲ得ズ（次項略ス）

第百九十四條　鑑定人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セサル時ハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第百七十九條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其言渡ニ對シテハ故障及ヒ控訴ヲ訴サス

解　此ノ二ケ條ハ豫審ノ鑑定人ニ科スル罰金ノ事ヲ示サレタルモノニシテ是等ノ時ニハ其ノ言渡ニ對シ上告スルヿハ能フモ控訴スルヿハ能ハザルモノトス

第三十　治罪法第四編第一章ノ內

第二百九十三條　証人呼出ニ應セサル時ハ裁判所ニ於テ卽時ニ檢察官ノ意見ヲ聽キ左ノ科料罰金ヲ言渡ス可シ但其言渡ニ對シテハ故障及ヒ控訴ヲ許サス

一違警罪事件ニ付テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料

二輕罪以上ノ事件ニ付テハ二圓以上十圓以下ノ罰金

被告人闕席シタル時ハ其呼出シタル證人出廷セスト雖ヒ科料罰金ヲ言渡ス可カラス

第二百九十七條　第百九十一條以下ノ規則ハ公判ニ於テ新ニ命シタル鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス但呼出ニ應セサル時ハ第二百九十三條ノ規則ニ從ヒ處分ス可シ

鑑定人ノ鑑定シタル事件ニ付キ說明ノ爲メ更ニ之ヲ呼出ス時ハ證人ニ付キ定メタル前數條ノ規則ニ從ヒ處分ス可シ

解　此ノ二ケ條ハ公判ニ於テ證人又ハ鑑定人ニ科スベキ科料又ハ罰金ノ事ヲ示サレタルモノニシテ是等ノ時ニハ其言渡ニ對シテ上告スルヿハ能フモ控訴スルヿハ能ハザルモノナリ

[第三十一]治罪法第四編第一章ノ内

第二百七十三條　公廷ニ於テ輕罪違警罪ヲ犯シタル者アル時ハ其身分ノ如何ニ拘ハラス裁判長ノ命令ニ因リ之ヲ取押ヘ檢察官ノ意見ヲ聽キ直チニ裁判ヲ爲シ又ハ次ノ公判ニ付スルノ言渡ヲ爲ス可シ

書記ハ犯罪ノ事件及ヒ裁判長ノ處分ニ付キ即時ニ調書ヲ作ル可シ

第二百七十四條　前條ノ場合ニ於テ違警罪裁判所ニテハ違警罪ニ付キ終審ノ裁判ヲ爲シ輕罪ニ付キ始審ノ裁判ヲ爲ス可シ

輕罪裁判所其他上等ノ裁判所ニテハ輕罪ニ付キ終審ノ裁判ヲ爲ス可シ

[解]常例ニテハ控訴ノ裁判ニアラズンハ終審ノ裁判ト爲ス可カラスト雖ヒ本條ハ終審裁判ニカヽル例外ノモノナリ左ニ之レヲ

說明スベシ但シ控訴ニ關セザルモノハ畧ス

第一違警罪裁判所ノ公廷ニ於テ違警罪ヲ犯シタルモノアルトキハ同裁判所ニ於テ終審ノ裁判ヲ爲ス

第二違警罪裁判所ノ公廷ニ於テ輕罪ヲ犯シタルモノアルトキハ同裁判所ニ於テ始審ノ裁判ヲ爲ス

第三輕罪裁判所ノ公廷ニ於テ違警罪又ハ輕罪ヲ犯シタルモノアルトキハ共ニ同裁判所ニ於テ終審ノ裁判ヲ爲ス

依テ公廷內ノ犯罪ニヨリ例外ノ終審裁判ヲ言渡サレタルトキハ上告ヲ爲スヿハ得ルモ控訴ヲ爲スヿハ能ハザルモノナリ

第三百十條　禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡シタル時ハ現ニ捕ニ就クニ非サレハ上訴ヲ爲スヿヲ得ス

[解]禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人ガ逃亡シタル時ハ上

訴ス可カラザルヤ勿論ニシテ其ノ言渡ハ通常ノ夫々ノ上訴期限ヲ經テ確定スルモノナリ然レトモ若シ刑ノ言渡ヲ受ケ之レニ對シ上訴ヲ爲シタル後チニ逃亡シタルトキハ上訴ノ効ハ失セザルベシ此ノ時ハ闕席裁判ヲ爲サルヽモノナラン

第三十二 治罪法第六編第一章ノ内

第四百六十六條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ノ條件ニ付キ疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ判決ス可シ

第四百六十七條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡ノ後捕ニ就キタル場合ニ於テ人違ノ申立アリタル時ハ之ヲ認定スル爲メ前ニ其罪ヲ認メタル裁判所ニ送致ス可シ

裁判所ニ於テ本犯ナルヿヲ認定スルヿ能ハサル時ハ事實參考ノ爲メ曾テ其事件ニ干預シタル裁判官檢察官書記又ハ原被ノ証人ヲ呼出スヿヲ得

第四百六十八條　前二條ノ場合ニ於テハ公廷ニテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ申立及ヒ檢察官ノ意見ヲ聽キ裁判言渡ヲ爲ス可シ但其言渡ニ對シテハ上訴ヲ許サス

解 此ノ三ケ條ハ別ニ說明セズ逃亡シタル被告人ガ捕ニ就キ人違ノ申立ヲ爲シタル時ト刑ノ言渡ニ對シ被告人カ疑義ノ申立ヲ爲シタル時ト刑ノ執行ニ對シ被告人ガ異議ノ申立ヲ爲シタル時トノ裁判言渡ニ對シテハ都テ上訴スルヿヲ得ザルモノトセラレタル條件ナリ

第三款　檢察官

第三十三 明治十七年四月二日秋田始審裁判所檢事ヨリ司法省ヘ請訓

茲ニ告訴ニ附帶シテ私訴ヲ爲シタル被告事件アリ裁判官其公訴ヲ裁判シタル後私訴ノ裁判ヲ爲スニ當リ檢察官ニ通報ヲ爲サヽル故同官ノ立會ナクシテ私訴ノ裁判ヲ言渡シタリ此卽チ治罪法第三十五條ノ法典ニ背キタルヲ以テ檢察官ニ於テ同法第三百六十五條第四項越權ノ處置アルヲ理由トシ控訴ヲ爲シ得ルハ勿論ト存候得共同法第三百六十五條第四項ハ刑ノ言渡ニ關シ越權等ノ處分アリタル場合ニ限リ適用スベキモノニテ檢察官カ刑事附帶ノ私訴裁判言渡ニ對シ控訴スル如キハ本項ノ規定ヲル所ニアラスト云フ反對論者アリ聊カ疑義ニ涉リ乞御內訓候也

○內訓 十七年四月十七日

請訓ノ趣ハ後段解釋ノ通此旨及內訓候也

解 檢察官ハ刑事ノ原告人ト公益ノ保護人トヲ兼ルモノニシテ民事上ノ訴訟ニ關係スベキモノニ非ズ故ニ公訴附帶ノ私訴ナレバトテ元ト公訴ニ附帶スルハ被告人ノ利益上ニ起リシモノニテ其實通常民事上ノ訴訟ナルユヘ其ノ裁判言渡ノ時ニ檢察官ヘ通知セザルモ檢察官之レニ不服ヲ唱フルヿ能ハズ何トナレバ檢察官ノ關スベキ公訴ノ裁判ハ既ニ言渡ヲ終リタル後ナニシテ單ニ私訴ニカヽルノミノ裁判言渡ナレバナリ

參照 治三百六十五條（八十六ページ）

治罪法第三十五條檢察官一名ハ公廷ニ立會フ可シ

第二編　民事之部

第一章　控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ搆成及ヒ權限

第一節　始審裁判所

[第一]明治十四年十二月廿八日第八十三號布告

治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限左ノ通制定ス

右奉　勅旨布告候事

第一條　治安裁判所ハ訴訟事件ヲ勸解ス但諸官廳ニ對スル事件及ヒ商事ニ係リ急速ヲ要スル事件ハ勸解スルノ限ニ在ラス

第二條　治安裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價格百圓未滿ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第三條　治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノヲ裁判スルヿヲ得ス

第四條　始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價格百圓以上並ニ第三條ニ掲ケタル治安裁判所權外ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第五條　始審裁判所ハ其管轄地内ノ治安裁判所ノ始審裁判ニ對スル控訴ニ付終審ノ裁判ヲ爲ス

但控訴ノ手續ハ明治十年第十九號布告控訴手續ニ照準スヘシ

解　從前何地區裁判所ハ治安裁判所ト變シ地方ノ裁判所ハ始審裁判所ト變シタルモノナリ以下明治十四年以前ノ布告類ヲ載スル時ハ渾テ之ヲニ准ズベシ

治安裁判所ニテ爲シタル裁判ニ不服ナルトキハ之レヲ其治安裁判所ヲ管轄スル所ノ始審裁判所ニ控訴スベキヿハ第五條ノ法文ニテ明カナリ而ノ始審裁判所支廳ニ於ケルモ次第二ニ示ス如ク本廳ト同一ノ權限ヲ有スルモノナルユヘ控訴ヲ受クルノ權亦

タ同一ナリ第三ヲ見テ知ル可シ

参照　一十年十九號布告（　）

第二　明治十六年一月十日第二號布告

明治十四年十月第五十三號同十五年六月第二十八號布告各裁判所ノ位置及ヒ管轄區劃別表ノ通リ改定シ始審裁判所支廳ハ本廳同一ノ權限ヲ以テ裁判セシム

但明治十六年二月一日ヨリ施行ス

右奉　勅旨布告候事

第三　明治十六年一月司法省甲第二號告示

本年第二號布告ヲ以テ始審裁判所管内ニ支廳ヲ被置候ニ付テハ民事ノ訴訟ハ支廳ヘ出訴スヘキモノト雖モ被告人ノ承諾ヲ得タル上ハ其承諾書ヲ添ヘ始審裁判所ヘ出訴スルヿヲ得

但支廳管内ニアル治安裁判所ノ裁判ニ對スル控訴ニ於ルモ本文ト同シ

右告示候事

解 始審裁判所支廳ハ本廳ト同一ノ裁判權ヲ有スルモノナルユヘ管内ノ治安裁判所ニテ爲シタル裁判ニ對スル控訴ヲ受クルヿモ本廳ト異ナルコトナシ然ルニ今茲ニ一ノ例アリ支廳管内ノ治安裁判ニテ爲シタル裁判ニ對スル控訴ハ支廳ニ爲スコソ正則ナレドモ控訴被告人ニ掛合ヲ爲シ控訴被告人ガ承諾シテ其承諾書ヲ控訴申立書ニ添ヘ出ストキハ本廳ヘ控訴スルモ差支ナキノ變例ヲ置カレタルナリ

参照 十四年八十三號布告五條（百十八ページ）

第二節 控訴裁判所

第四 明治十年二月第十九號布告ノ内

上等裁判所章程

第一條 上等裁判所ハ地方裁判所ノ裁判ニ服セスシテ控訴スル者ヲ覆審ス

解 從前ノ上等裁判所ハ控訴裁判所ト變シタルヲ以下追々上等裁判所トアルハ今日ノ控訴裁判所ノ事ナリト見做スベシ故ニ本條ヲ説明スルトキハ控訴裁判所ハ其管轄地内ノ始審裁判所ノ始審裁判ニ對スル控訴ニ付キ覆審ノ上終審裁判ヲ爲ス ト解意スルヲ當レリトスベシ何トナレハ始審裁判所ト雖モ治安裁判所ノ始審裁判ニ對シタル控訴ヲ受ケテ之レニ終審裁判ヲ爲スノ權アルモノナレハ只タ單ニ始審裁判所ノ裁判ニ服セストノミニ粘着セ

ハ始審裁判所ニテ爲シタル終審裁判ヲモ第二回ノ控訴スルヿ能フモノヽ如シ何ゾ夫レ然ランヤ「控訴ハ一タヒスルヿヲ得再ヒスルヿヲ得ス」ト法文アリ依テ以テ控訴裁判所ニ受クル控訴ハ始審裁判所又ハ其支廳ノ爲シタル始審裁判ニ對スルモノニ限ルベキヤ勿論ナリ

治罪法第二編第四章ナル控訴裁判所ノ構成及ヒ權限ノ條件ニモアル如ク控訴裁判所ハ民刑両事ノ控訴ヲ受ケ終審裁判ヲ爲スベキ裁判所ナルユヘ刑事局ニ對スル民事局ヲ置カレ且ツ構成權限等モ夫々治罪法第六十三條以下ノ條件ニ對スルモノナルベシ然レドモ我邦未ダ訴訟法ノ頒布ナキユヘ本揭ノ布告ノ外ハ載スルニ由ナキナリ

參照 治六十三條（三十ページ）六十四條六十五條（三十二ページ）六十六條（三十三ページ）六十七條六十八條六十九條（三十四ページ）

○

第二章　民事控訴手續

編者白 民事ノ控訴ハ始審裁判所ヘ爲スモノモ控訴裁判所ヘ爲スモノモ其手續强テ異ナルヿナキユヘ茲ニ其ノ區別ヲ爲サズ其少異ナルハ各條下ニ就テ解明スベシ裁判言渡ノ如キ裁判確定ノ如キ控訴ノ權ヲ失ヒタル者ノ如キ皆ナ本章ノ下ニ列スルナリ

第五 明治十年二月第十九號布告ノ内

明治八年(五月)第九十一號布告大審院諸裁判所職制章程同年(同月)第九十三號布告控訴上告手續別冊ノ通改正候條此旨布告候事

但巡回裁判規則判事職制通則ハ刪除候事

別冊

控訴上告手續

第一章

控訴ノ事

第一條　凡地方裁判所ノ初審ニ服セスシテ再ヒ上等裁判所ニ訴ヘ覆審ヲ求ムル者之ヲ控訴ト云フ

[解]此ノ法文ヲ現行ニ解明スルトキハ「凡ソ治安裁判所ノ始審裁判ニ服セズシテ始審裁判所ニ訴ヘ覆審ヲ求メ又ハ始審裁判所ノ始審裁判ニ服セズシテ控訴裁判所ニ訴ヘ覆審ヲ求ムルモノ之レヲ控訴ト云フ」

[参照]十四年八十三號布告五條（百十八ページ）十年十九號布告上等裁判所章程一條（百二十一ページ）

第二條

[解]刑事ニカヽリ現行ニアラザルユヘ畧ス

第三條　控訴ハ一タヒスルヿヲ得再ヒスルヿヲ得ス

[解]控訴ノ裁判ハ即チ終審裁判ナルユヘ是ノ裁判ニ對シ法律背戻ノ廉ヲ以テ大審院ニ上告スルヿハ得ルモ再ヒ控訴シテ事實ノ覆審ヲ求ムルヿハ能ハザルナリ之レ終審裁判ヲ經タルトキハ既ニ其事件ノ裁判ハ執行シテ上告スルモ其執行ヲ停ムルモノニ非ザレハナリ

第四條　地方裁判所ニ於テ裁判ノ言渡ヲ爲シタル時原告被告ノ双方又ハ一方ノ者其裁判ニ不服ナル時ハ裁判言渡ヨリ第七日マテニ（裁判言渡ノ翌日ヨリ數フ）裁判言渡ノ事理ヲ熟考シ其翌日ニ至リ控訴スルヿ

ヲ得可シ但シ訴訟ノ案件商事ニ係リ急速ニ控訴スルヿヲ要スルノ場合ニ於テハ七日内ト雖モ控訴スルヿヲ得

第五條　地方裁判所ノ裁判言渡ヨリ二箇月（三十日ヲ以テ一月トス）ヲ過クルトキハ控訴スルヿヲ許サス

但シ地方裁判所ヨリ上等裁判所ニ至ルノ距離八里ヨリ遠キトキハ期限二ヶ月ノ外八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ增スヘシ

参照　明治十五年四月二十六日第二十一號布告

明治十年二月第十九號布告控訴上告手續第五條中三ヶ月トアルハ總テ二ヶ月ト改正ス

右奉　勅旨布告候事

解　本二條ハ即チ控訴期限ヲ示サレタルモノニシテ刑事ノ控訴トハ大ニ趣ヲ異ニスルモノアリ刑事ノ控訴ニ於テハ裁判言渡ノ

即日ヨリ控訴ノ申立ヲ爲シ能フモノトシテ五日ヲ過グレバ控訴ノ權ヲ失フナレドモ民事ニ於テハタトヘ即日ニ裁判ノ不理ナルヲ知ルトモ七日ヲ經ザレバ申立ルヿヲ得ザルヿトセラレタリ尙本二條ヲ併セテ解明スルトキハ原告被告ノ雙方又ハ其一方ノ者カ治安裁判所又ハ始審裁判所ノ始審裁判言渡ニ對シ不服ナルトキハ其言渡ノ翌日ヨリ計ヘ七日ノ間裁判言渡ノ理由ヲ熟考シ其日限ヲ過ギテヨリ六十日（裁判言渡ノ翌日ヨリ）ノ間ニ控訴ノ申立ヲ爲スヿヲ得可シ（譬ヘバ三月一日ニ裁判言渡ナリタル場合ニハ三月八日マデ熟考シ同九日ヨリ四月三十日マテノ間ニ控訴ヲ申立ルノ類ナリ）若シ原裁判所ヨリ控訴ヲ受クベキ裁判所ニ至ルノ距離八里以外ナルトキハ六十日期限ノ外ニ毎八里ニ付一日宛ノ猶豫日ヲ加フル者トス但シ訴訟事件カ商事ニ關スルヿニテ急速ヲ要スルモノナルトキハ七日ノ熟考期限ヲ待タズシテ控訴ス

ルヿヲ得可シ」

第六條　控訴ヲ爲ス者ハ其初審ヲ受ケタル地方裁判所ニ屆ケ出ツヘシ

但シ添翰ヲ乞フニ及ハス

〔解〕本條ヲ解明セン二「控訴ヲ爲サントト欲スル者ハ第四條ノ期限ヲ過タル後チ原裁判所治安裁判所又ハ始審裁判所ノ書記局ニ其屆出ヲ爲ス可シ但シ原裁判所ノ添翰ヲ要セズ」

控訴屆ノ文例左ノ如シ但シ始審ノ被告人ノ控訴ニカヽルモノニシテ其原告人ノ控訴ニ於ケル大同小異ノミ

控訴御屆

何府(縣)何區(何國何郡)何町(何村)

何番地士族(平民)何業　何野被兵衛

控訴原告人

右私儀何府(縣)何區(何國何郡)何町(何村)何番地何野原兵衛ヨリ係ル何々事件ノ訴ニ付明治何年何月何日ニ爲サレタル始審裁判言渡ハ不當ト思料仕候ニ付明治十年第十九號布告控訴上告手續第一條ニ依リ何地控訴(始審)裁判所ヘ控訴仕候依テ同第六條ニ依リ此段御屆仕候以上

明治何年　右

何月何日　何野被兵衛　印

何地治安裁判所長

判事氏名殿

又ハ

何地始審裁判所長

判事氏名殿

又ハ

何地始審裁判所何地支廳長

判事氏名殿

右ハ一通ヲ差出サバヨロシカルベシ

民事訴訟印紙規則ニ控訴屆ヘ貼用スベキ印紙ノ類ナキユヘ印紙ヲ貼用スルニ及ハザルベシ

第七條　前條ノ屆ヲ受取リタル地方裁判所ハ裁判言渡ノ執行ヲ停止ス可シ若シ上等裁判所ノ請求アル時ハ地方裁判所ニ於テノ訴狀答書口書裁判見込等ヲ差出ス可シ

【解】本ハ三樣ノ意ヲ含ムモノナルユヘ茲ニ二樣ニ分チテ說明スベシ

始審ノ裁判ハ覆審ノ道アルモノナルヲ以テ覆審ヲ求ムルモノアルヨリハ確定シタリト謂フ可カラズ控訴期限ナル二ケ月ヲ經テ控訴スルモノサキトキニ始メテ裁判確定シ執行スベキモノナリトス故ニ控訴期限內ニ控訴ノ申立アリタルトキハ原裁判所ニ於テハ其執行停ムルモノナリ之レニ反シ控訴ノ裁判言渡ハ卽チ終審ナルユヘ法律背戾ノ貼ナクンバ最早上訴スルノ道ナシタトヘ法律背戾ノ點アリテ上告スル場合ナリトモ終審裁判ヲ經タルモノハ直チニ確定シテ其ノ執行ヲ爲スモノナリトス

【參照】控訴上告手續第十八條　上告ニ付テハ裁判ノ執行ヲ停メス大審院已ニ原裁判ヲ破毀スルニ至レハ卽日原裁判所ニ通

報シテ（大審院ヨリ郵信ヲ發ス）執行ヲ停メ更ニ審判落着日ノニ至テ前ノ執行ヲ取消シテ後ノ裁判ヲ執行セシム可シ

但內國人ヨリ裁判外ノ人民ニ對シ又ハ裁判外ノ人民ヨリ內國人ニ對スル上告ハ原裁判ノ執行ヲ停ムベシ

控訴ヲ受ケタル裁判所ヨリ原裁判所ヘ書類ノ送付ヲ請求アリタル場合ニハ郵便通運又ハ其他ノ方法等孰レニテモ便利アル方ニテ送ラルヽモノナルベシ茲ニ其他ノ方法トハ同地ニアル裁判所ナルトキハ小使ヲシテ送ラシムルノ類ナリ

第八條　上等裁判所ニ捧クルノ訴狀ハ訴答文例ニ照準スベシ

[參照] 明治六年七月第二百四十七號布告ノ內

訴答文例

第二十條　控告ノ訴狀

原被告人豫審又ハ終審ノ裁判言渡ヲ受ケ其裁決ニ服セスシテ之ヲ上等ノ裁判所ニ控告セントスルノ訴狀ハ住所氏名ノ次ニ訴訟ノ題目ト其年月日ト裁判所ニ呼出サレタル度數其年月日ト訟庭ニ臨ミタル裁判役ノ氏名ヲ知ルヲ得ヘキニ於テハ之ヲ記載シ次ニ其裁判言渡書ノ寫ト裁決ニ服セサルノ旨趣トヲ書シ且ツ前訴狀ノ寫ヲ別冊ト爲シ訴出可シ

[解] 訴答文例第六條第四項ニ依ルトキハ控訴狀ハ正副二通ノ外ハ要スルモノニ非ズト雖モ控訴被告人數名ニシテ而モ其居住所各數十里ヲ隔ル等ノ事アルトキハ控訴ヲ受ク可キ裁判所ヨリ控訴原告人ヘ申談シテ數通ノ訴狀ヲ出サシムルヿアル此ノ時ニ當リテモ訴訟用印紙貼用ニ相違ハナカルベシ何トナレバ印紙ハ正本一通ヘ貼用スベキモノナルヲ以テナリ

訴狀ニ貼用スベキ訴訟用印紙ハ始審ノ時ノ半額ヲ加貼スルモノトス譬ヘバ始審ニ於テ拾圓ノ印紙ヲ要スルモノナラバ拾五圓ヲ貼用スルモノナリ其他答辯書。証據物寫。辨駁書。辯論書。上申書。陳述書。証人鑑定人評價人引合人等ノ呼出ヲ請求スルノ願書。審判ノ延期ヲ請求スル願書。官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書。財産差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書。執行命令書ヲ請求スル願書。身代限ノ處分ヲ請求スル願書。裁判言渡書ノ謄本ニ對スル受取書等ノ類ニハ規則中ニ加貼ノ事ヲ見ザルユヘ加貼スルニハ及バザルベキナリ

控訴狀ノ文例左ノ如シ但シ始審ノ被告人カ原告人トナリテ控訴スルモノニカヽルナレドモ之レニ反シテ始審ノ原告人カ原告人トナリテ控訴スルトキニカヽルモノモ亦タ大同小異ナリ

何府(縣)何區(何國何郡)何町(何村)
何番地士族(平民)
原告人　何野被兵衛

何々ノ控訴

何縣(府)何國何郡(何區)何村(何町)
何番地平民(士族)
被告人　何野原兵衛
里程何里何丁何間

一明治何年何月何日訴狀奉呈
明治何年何月何日答書
明治何年何月何日原裁判言渡
一出廷度數　何回

明治何年何月何日
明治何年何月何日

一掛リ裁判官　判事氏名殿

一原裁判言渡書ノ寫左ノ如シ

裁判言渡書

云々（言渡書ノ全文ヲ掲載スベシ）

右原告人何野被兵衛申上候云々（原裁判言渡ノ不當ナルヿヲ或ハ條項ニ分チ類別ニ分チ論述記載スベシ）

（結文左ノ如シ）

前條項ノ理由ナルヲ以テ何地治安（始審）裁判所ニ於テ爲サレタル裁判言渡ハ控訴原告ニ於テ服スルヿ能ハズ依テ明治十年第十九號布告控訴上告手續第四條ニ據リ控訴仕候間御

覆審ノ上至公ノ御裁判奉仰候以上

明治何年　右

何月何日　何野被兵衛印

何地控訴（始審）裁判所（何地支廳）長

判事氏名殿

右ハ通常民事ノ規則ニ遵ヒ美濃紙又ハ之レト同尺度ノ紙ヲ用ヒ一枚二十四行一行二十字詰ニ書スベキモノナリ控訴屆ニ於ケル亦タ同シ

答書辨駁書上申書等ノ書式ハ都テ通常民事ノ規則ニ依リ認ムベシ

餘言第一　未決在監人ガ民事ノ始審裁判ニ對シ控訴セントス

ルモ相當ノ代人ナシ又タ代言人ニ依賴センニハ其費用ニ堪ヘザル如キ場合ニハ本人ガ明細ニ控訴ノ理由ヲ書面ニ認メテ控訴ヲ受ク可キ裁判所ヘ奉呈セズンバ他ニ術ナキ如シ

餘言第二（裁判費用訴訟入費）ハ曲者ヨリ直者ニ辨償スルハ當然ノ事ナリ依テ終審裁判ニテ確定シタルトキハ左ノ如ク辨償スベキナリ但裁判言渡書ニ載セラルベシ

甲　始審ニテ原告直ナルトキ控訴ニテ被告（始審ノ原告）直ナルトキハ原告（始審ノ被告）ハ始審終審ノ裁判費用ヲ併セテ辨償スベシ

乙　始審ニテ被告直ナルトキ控訴ニテ原告（始審ノ被告）直ナルトキハ被告（始審ノ原告）ハ始審終審ノ裁判費用ヲ併セテ辨償スベシ

丙　始審ニテ原告直ナルトキ控訴ニテ原告（始審ノ被告）直ナルトキハ被告（始審ノ原告）ハ始審終審ノ裁判費用ヲ併セテ辨償スベシ

丁　始審ニテ被告直ナルトキ控訴ニテ被告（始審ノ原告）直ナルトキハ原告（始審ノ被告）ハ始審終審ノ裁判費用ヲ併セテ辨償スベシ

右ノ外上告ノ上棄却トナリ又ハ破毀ニナリテ第二ノ裁判所ニテ確シタル時等ノ例アレドモ上告ニ關スルモノニシテ控訴ニ關係少ナキユヘ茲ニ載セズ

刑事
民事 控訴法解終

附錄 日本全國各裁判所管轄區劃一覽表

凡例 本表ハ明治十六年一月十日第二號布告ニテ改正セラレタルモノニシテ而ノ尙明治十六年六月廿八日第二十號布告明治十六年九月七日第三十二號布告明治十七年十月三日第二十七號布告等ニテ改正セラレタリ依テ著者ハ其ノ改正ヲ以テ直チニ表中ヲ改正シテ載セタルユヘ卽チ本表ハ現時ノ管轄區劃表ナリト知ルヿヲ得ベシ

裁判所一覽表

控訴	始審 本廳	治安府縣	國名	區郡名
		京橋區		日本橋區 京橋區

大東京

東京		芝區	麻布區 赤坂區 芝區 麻布區 赤坂區
		麹町區	麹町區 四谷區 牛込區 小石川區 麹町區 四谷區 牛込區 小石川區
		下谷區	本郷區 南豐嶋 神田區 下谷區 淺草區 本郷區 南豐嶋 神田區 下谷區 淺草區
		本所區	南足立 北豐嶋 本所區 深川區 南葛飾 南足立 北豐嶋 本所區 深川區 南葛飾
横濱	横濱	横濱	横濱區 久良岐 橘樹 都筑 三浦 鎌倉 高坐 横濱區 久良岐 橘樹 都筑 三浦 鎌倉 高坐
		小田原	神奈川縣 足柄上 足柄下 大住 陶綾 愛甲 足柄上 足柄下 大住 陶綾 愛甲
	八王子	八王子	武藏 (南北西)多摩 津久井 武藏 (南北西)多摩 津久井
千葉		千葉	上總 下埴生 千葉 印旛 南相馬 東葛飾 上總 下埴生 千葉 印旛 南相馬 東葛飾 上埴生 夷隅 長柄 市原 上埴生 夷隅 長柄 市原
	木更津	木更津	上總 天羽 周淮 望陀 上總 天羽 周淮 望陀
	北條	北條	安房 全國四郡 安房 全國四郡
	八日市場	八日市場	下總 海上 香取 匝瑳 下總 海上 香取 匝瑳
水戸		水戸	上總 山邊 武射 上總 山邊 武射
			常陸 (東西)茨城 那珂 久慈 多賀 常陸 (東西)茨城 那珂 久慈 多賀 鹿島ノ內 鹿島ノ內

控訴

水戸		土浦	常陸 新治 筑波ノ內 河內 信太 常陸 新治 筑波ノ內 河內 信太
		下妻	下總 行方 鹿島ノ內 下總 行方 鹿島ノ內
橡木		橡木	下野 北相馬 下野 北相馬
		宇都宮	下總 眞壁 筑波ノ內 下總 眞壁 筑波ノ內
		宇都宮	下野 猿嶋 結城 岡田 豐田 西葛飾 下野 猿嶋 結城 岡田 豐田 西葛飾
浦和		浦和	上都賀 下都賀 寒川 安蘇 梁田 足利 上都賀 下都賀 寒川 安蘇 梁田 足利
		川越	河內 芳賀 塩谷 那須 河內 芳賀 塩谷 那須
		熊谷	武藏 中葛飾 北足立 新庄 南埼玉 北葛飾 武藏 中葛飾 北足立 新庄 南埼玉 北葛飾
		大宮	武藏 入間 高麗 武藏 入間 高麗
			北埼玉 比企 男衾 横見 大里 北埼玉 比企 男衾 横見 大里
			榛澤 籠羅 兒玉 賀美 那賀 榛澤 籠羅 兒玉 賀美 那賀
			秩父 秩父
前橋		前橋	上野 東群馬 (南北)勢多 佐位 那波 上野 東群馬 (南北)勢多 佐位 那波
		高崎	利根 吾妻 西群馬ノ內猪野川以東 利根 吾妻 西群馬ノ內猪野川以東
		群馬縣	碓氷 (南北)甘樂 片岡 多胡 碓氷 (南北)甘樂 片岡 多胡
			緑野 西群馬ノ內猪野川以西 緑野 西群馬ノ內猪野川以西
		太田	新田 山田 邑樂 新田 山田 邑樂
静岡		静岡	駿河 庵原 有渡 安部 志田 益津 駿河 庵原 有渡 安部 志田 益津

裁判所

長野		甲府	静岡
松本			濱松
大町	上諏訪	谷村	掛川
飯田	松本	甲府	濱松
飯山	長野	長野県 山梨県	沼津 静岡県
信濃		甲斐	遠江 駿河 伊豆
東筑摩ノ内	上伊奈ノ内	上水内ノ内	山名
(南北)安曇ノ内	諏訪	埴科ノ内	周智
	上伊奈ノ内	上高井	城東
	下伊奈	更級ノ内	佐野
	上伊奈ノ内	下高井	榛原
	(南北)安曇ノ内	上水内ノ内	(東西)山梨
		下水内	(東西)八代
			(南中北)巨摩
			(南北)都留
			那加
			加茂ノ内
			駿東
			富士
			君澤
			田方
			加茂ノ内
			豐田
			磐田
			長上
			麁玉
			濱名
			敷知
			引佐

裁判所

新潟			
相川	高田	長岡	新發田
相川	糸魚川	高田	六日町
柏崎	長岡	村上	新發田
新潟	岩村田	上田	福島
新潟縣			
佐渡	越後		
全國三郡	西頸城	中頸城	東頸城
中魚沼	南魚沼	刈羽ノ内	古志
北魚沼	三嶋	刈羽ノ内	岩船
北蒲原	新潟區	(西中南)蒲原	南佐久
北佐久	小縣	埴科ノ内	更級ノ内
西筑摩ノ内			

大坂

京都	京都	上京區 愛宕 葛野 宇治ノ內 乙訓 紀伊 久世 相樂 綴喜
	伏見	
	園部	丹波 天田 何鹿 加佐ノ內
	福知山	丹後 熊野 竹野 中 與謝 加佐ノ內
	宮津	丹後 西區 北區 西成 嶋上 嶋下
大阪	中ノ嶋	摂津 豐嶋 能勢
	天王寺	河內 讚良 交野 茨田
	堺	摂津 東區 南區 東成 住吉
	奈良	河內 大縣 河內 若江 澁川 高安
	五條	和泉 志紀ノ內 丹北ノ內 大和川以北
奈良	奈良	大和 堺區 全國四郡
神戸	神戸	河內 安宿 丹南 八上 古市 石川
		錦部 志紀ノ內 丹北ノ內 大川以南
		添上 山邊 平群 式上 式下
		十市 廣瀨 宇陀 高市ノ內 葛下ノ內
		宇智 吉野 葛上 忍海 高市ノ內
		葛下ノ內
		神戸區 八部 菟原 武庫 川邊 有馬

控訴

神戸	兵庫縣	播磨 明石 美囊
		丹波 多紀 氷上
		播磨 揖西 揖東 赤穗 佐用 宍粟
		淡路 全國二郡
		播磨 多可 加西 印南 神東 神西 飾東 飾西 加東 加古
		但馬 全國八郡
岡山	岡山縣	備前 岡山區 全國八郡
		備中 宇都 加陽ノ內
		備中 小田 後月 下道 窪屋 淺口
		上房 阿賀 哲多 川上 加陽ノ內
		美作 全國十二郡
津山		滋賀 野洲 甲賀 栗太 蒲生 高嶋
大津	滋賀縣	近江 神崎 愛知 犬上 阪田 伊香 東西淺井
彦根		
彦根		

裁判

和歌山	富山	金澤	福井							
		七尾	小濱							
和歌山	高岡	魚津	富山	輪嶋	七尾	小松	金澤	敦賀	小濱	大野	福井
和歌山縣	富山縣	石川縣	福井縣							
紀伊	越中	能登	加賀	若狹越前	若狹	越前				
南條 今立 丹生 吉田 阪井 足羽	大野	遠敷 大飯	敦賀 三方	金澤區 河北 石川	能美 江沼	鹿嶋 羽咋	珠洲 鳳至	上新川 婦負	下新川	射水 礪波	和歌山區 伊都 那賀 名草 海部 有田

審判所

	松山					高知		德島			
	高松	宇和嶋				中村		脇町		田邊	
名古屋	丸龜	高松	宇和島	大洲	西條	松山	中村	高知	脇町	德嶋	田邊
	愛媛縣					高知縣		德嶋縣			
	讃岐	伊豫				土佐		阿波			
名古屋區 (東西)春日井 海東 海西 愛知ノ內	那珂 多度 三野 豐田 鵜足 阿野ノ內	大內 寒川 三木 山田 香川 小豆 阿野ノ內	(東南北) 宇和	宇摩 新居 周布 桑村 越智	喜多 西宇和	野間 叅 風早 上下浮穴 和氣 伊豫 溫泉	幡多	安藝 香美 長岡 土佐 吾川 高岡	美馬 三好 麻植 阿波	名東 名西 勝浦 那賀 海部 板野	日高 東西牟婁

名古屋控訴裁判所

名古屋				安濃津				岐阜			
		岡崎					山田				高山
熱田	一ノ宮	岡崎	豐橋	安濃津	四日市	上野	山田	岐阜	大垣	御嵩	高山
愛知縣				三重縣				岐阜縣			
尾張		三河		伊勢		伊賀	伊勢 志摩 紀伊	美濃			飛彈
知多 愛知ノ内	丹羽 葉栗 中嶋	額田 碧海 幡豆 東加茂 西加茂	八名 南設樂 北設樂 寶飯 渥美	河曲 鈴鹿 奄藝 安濃 飯高 一志 飯野	桑名 員部 朝明 三重	全國四郡	多氣 度會 全國二郡 南牟婁 北牟婁	厚見 羽栗 各務 中嶋 方縣 山縣 武儀 郡上	海西 (上下)石津 多藝 不破 本巣 席田 安八 池田 大野	加茂 可兒 土岐 惠那	全國三郡

廣嶋控訴裁判所

廣嶋			山口				松江			
		尾道				赤間關			濱田	西鄕
廣嶋	三次	尾道	山口	岩國	萩	赤間關	松江	今市	濱田	西鄕
廣嶋縣			山口縣				嶋根縣			
安藝	安藝 備後	備後	周防 長門	周防	長門		出雲	出雲 石見	石見	隱岐
廣嶋區 沼田 安藝 佐伯 山縣 高宮 加茂 豐田	高田 三谿 奴可 三次 三上 惠蘇	御調 甲奴 世羅 深津 品治 沼隈 蘆田 安那 神石	都濃 佐波 吉敷 美禰	熊毛 大島 玖珂	大津 阿武 見島	赤間關區 厚狹 豐浦	大原 意宇 能義 秋鹿 島根 仁多	神門 出雲 楯縫 飯石 安濃	那賀 邑智 邇摩 美濃 鹿足	全國四郡

所	鳥取		鳥取	鳥取縣	因幡	全國八郡
					伯耆	河村 久米
		米子	米子		伯耆	汗入 會見 八橋 日野
長崎	長崎		長崎	長崎縣	肥前	長崎區 北高來 東彼杵 西彼杵ノ內
			島原			南高來
		平戸	平戸			北松浦
			武生水		壹岐	全國二郡
		嚴原	嚴原		對馬	全國二郡
		福江	福江		肥前	南松浦 西彼杵ノ內
	佐賀		佐賀	佐賀縣	肥前	基肄 養父 三根 神崎 佐賀 小城 杵嶋 藤津
			唐津			(東西)松浦
	福岡		福岡	福岡縣	筑前	福岡區 席田 粕屋 宗像 穗波 早良 嘉麻 上座 下座 夜須 御笠 志摩 怡土 那珂
		久留米	久留米		筑後	上妻 下妻 生葉 竹野 山本 御原 御井 三瀦ノ內

控訴裁			柳川			御池 山門 三瀦ノ內
		小倉	小倉		豐前 筑前	企救 田川 京都 中津 築城 上毛 遠賀 鞍手
	大分		大分	大分縣	豐後	大分 北海部ノ內 大野ノ內 速見ノ內
			佐伯			南海部 北海部ノ內 大野ノ內
			竹田			直入 大野ノ內
			杵築			(東西)國東 速見ノ內
		中津	中津		豐前	下毛 宇佐
			豆田		豐後	玖珠 日田
	熊本		熊本	熊本縣	肥後	熊本區 飽田 託摩 宇土 合志 (上下)益城
			宮地			阿蘇
			山鹿			山鹿 山本 菊池 玉名
			八代			八代 芦北

宮	判所		
仙臺	宮崎	鹿兒嶋	
		大嶋	天草
大河原 古川 仙臺	延岡 都城 宮崎	大島 水引 鹿兒嶋	天草 人吉
宮城縣	宮崎縣	鹿兒島縣	
盤城 陸前	日向	大隅 大隅 日向 薩摩	薩摩
柴田 刈田 伊具 亘理	北諸縣 南那珂ノ内 西諸縣	大島 宮崎 兒湯 東諸縣 南那珂ノ内 北那珂	求麻 天草 鹿兒島 頴娃 揖宿 川邊 谷山 阿多 給黎 日置ノ内 姶羅 噌唹 肝屬 熊毛 大隅 桑原 馭謨 南諸縣 薩摩 高城 伊佐 甑嶋 出水 日置ノ内 菱刈
	(東西)臼杵		

訴	控	城	
	山形	福嶋	
	酒田 米澤	若松 平 白河	石卷
盛岡	鶴岡 酒田 米澤 新庄 山形	若松 平 白河 中村 福嶋	石卷
	山形縣	福嶋縣	
陸中	羽前 羽後 羽前	越後 岩代 磐城 岩代 磐城 磐城 磐城 岩代	陸前
(南北)九戸 西閉伊 (南北)岩手 紫波 稗貫 (東西)和賀	東田川 西 東西 南北村上 最上 東西 置賜 南	內 東蒲原 (南北)會津 耶麻 河沼 大沼 安積ノ 磐城 檜葉 菊田 標葉 田村 ノ內 岩瀬 安積ノ內 (東西)白河 石川 田村ノ內 信夫 安達 伊達 宇多 行方	桃生 牡鹿 登米 本吉

裁判所	盛岡			岩手縣	陸奥	二戶
			宮古		陸中	東南北中閉伊
		盤井	盤井		陸中	(東西)磐井 膽澤 江刺
					陸前	氣仙
	秋田		秋田	秋田縣		川邊 南秋田
			本庄		羽後	由利
			能代			山本
			大館町		羽後 陸中	北秋田 鹿角
		大曲	大曲		羽後	仙北 平鹿ノ內
			横手			雄勝 平鹿ノ內
函館控訴裁判所	前弘		弘前	青森縣	陸奥	中津輕 南津輕
			鰺ヶ澤			西津輕
			青森			東津輕 下北 上北ノ內
			五所河原			北津輕
		八戶	八戶			三戶 上北ノ內
	函館		函館	函館縣	渡島	函館區 龜田 上磯 茅部
					膽振	山越
			江刺		渡嶋	檜山 爾志
					後志	久遠 太櫓 瀬棚 奥尻
			福山		渡嶋	松前
			壽都		後志	嶋牧 壽都 歌棄 磯谷
	札幌		札幌	札幌縣	石狩	札幌區 全國九郡
					膽振	虻田 有珠 室蘭 幌別 勇拂 白老 千歲
			浦川		十勝	全國七郡
					日高	全國七郡
			增毛		天鹽	全國六郡
					北見	宗谷 枝幸 利尻 禮文
			小樽		後志	小樽 余市 美國 積丹 高嶋
						忍路 古平
			岩內			古宇 岩內
			根室		根室	全國五郡

院

根室	千島 全國八郡
厚岸	根室縣 北見 斜里 網走 常呂 紋別
	釧路 全國七郡

○明治十四年十二月廿八日第七十九號布告

各裁判所ノ位置及管轄區劃ノ儀本年十月第五十三號ヲ以テ布告候處北海道函館始審裁判並ニ沖繩縣ノ儀ハ當分從前ノ通其所管内ヲ除ク所管轄ノ官廳ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜ノ取計ヲ爲スヘシ

但控訴ノ儀北海道ハ函館控訴裁判所沖繩縣ハ長崎控訴裁判所ノ管轄ニ屬ス

右奉　勅旨布告候事

解　本號布告文中北海道云々ハ本表即チ明治十六年一月十日第二號布告ニテ消滅シ只タ沖繩縣ダケ現行ニ屬スルモノトス

○明治十四年十月七日第五十六號布告

小笠原嶋裁判事務當分東京府出張所ニテ治安裁判所即チ違警罪裁判所始審裁判所即チ輕罪ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民事控訴及ヒ重罪裁判ハ東京控訴裁判所ノ管轄ト相定メ明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該嶋ニ於テ治罪ノ手續ハ適宜取扱フベシ

○明治十四年十月七日第五十七號布告

伊豆七嶋裁判事務當分該嶋吏ヘ民事ハ百圓以下及勸解並ニ刑事ハ違警罪ノ裁判ヲ委任シ民事百圓以上刑事輕罪以上ハ東京始審裁判所ノ管轄ト定メ明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該嶋ニ於テ裁判治罪ノ手續ハ適宜取扱フ可シ

○明治十四年二月二十八日第二號布達
本年十月第五十三號ヲ以テ各裁判所ノ位置及管轄ノ區畫改正候ニ付テハ從前布告布達中上等裁判所トアルハ控訴裁判所地方裁判所トアルハ始審裁判所區裁判所トアルハ治安裁判所ト改マリ候儀ト心得ヘシ
右布達候事

附錄終

明治十八年一月十二日出版御届
仝　年二月十　日刻成發兌

（定價金四十錢）

著者　廣嶋縣士族　戸田十畝
廣島縣備後國御調郡尾道尾崎町四百十番邸寄留

出版人　廣嶋縣平民　三木半兵衛
廣嶋縣備後國御調郡尾道土堂町八十五番地居住

發兌　東京　小笠原書房
大阪　吉岡平助
大阪　大村安兵衛
大阪　牧野保輔

エト3R-46

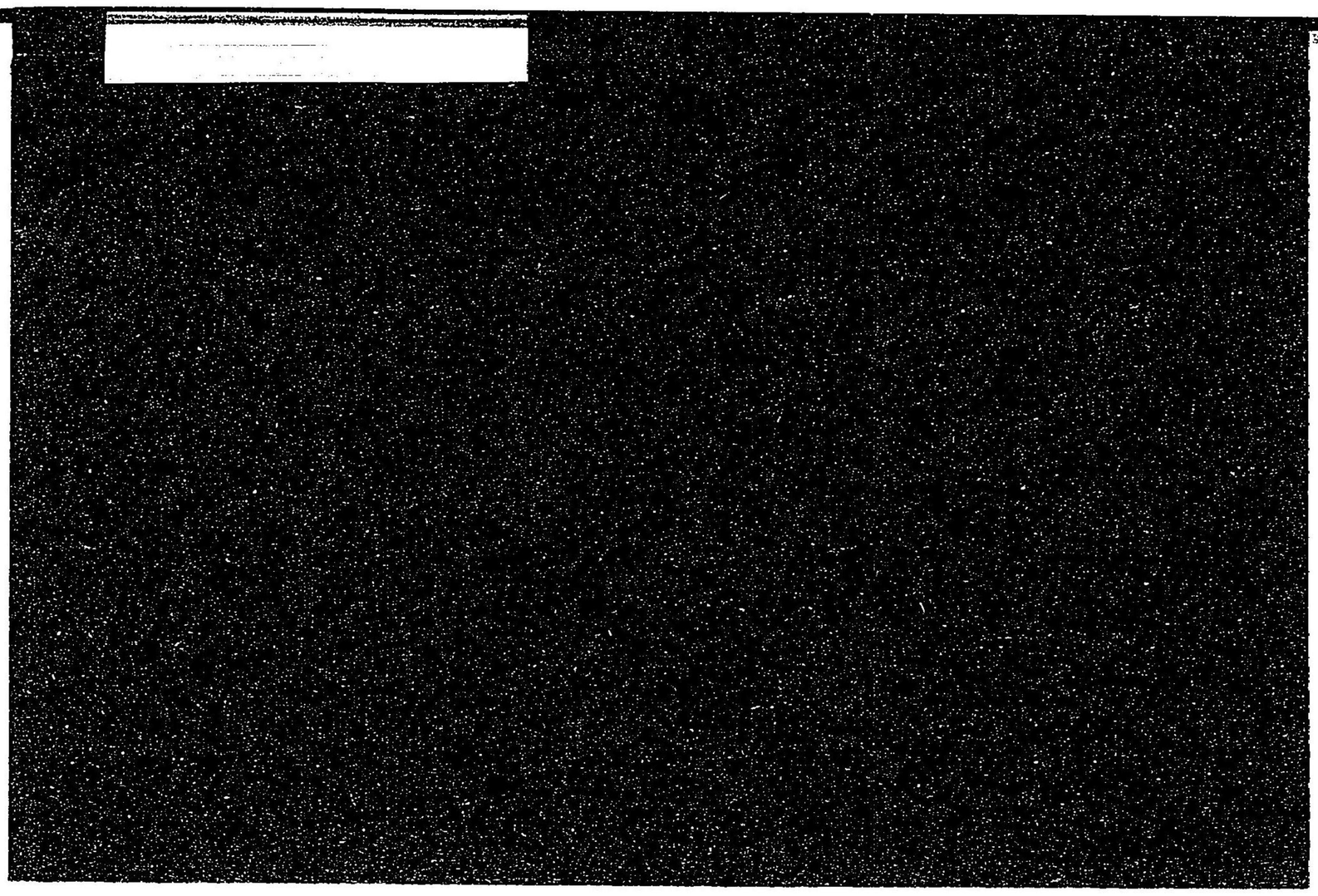
各地書肆賣捌所

全大阪
全
全
全
全
全
全
全
全
全
全
全
全
全
全
全
全
全
全

此村 丰村 赤川 中志 山嶋 森口 鹿本 前田 桂川 辻村 蒲本 淺井 中野 三木 南原 北村 廣原 岡田 華井 梶田 岡嶋
彦 萬 忠 德 恒 太 靜 源 丸 信 善 吉 啓 伍 龜 孝 喜 茂 卯 喜 眞
兵 七 兵 太 兵 兵 二 兵 兵
助 助 七 衛 七 助 七 郎 衛 郎 衛 衛 藏 助 七 郎 衛 衛 助 藏 七

全 備後福山 作州 全 銳州 紀州 全 備前 播磨 近江 兵庫 全 全 全 全 全 全 全 全 全 大阪
藤原 寶田 右田 長田 山平 武田 弘文 山澤 船井 湯川 青木 熊谷 淺野 小伊 小卯 中新 北尾 堀谷 此村
村田 田田 濱竹 非彌 文北 野長 宗敬 孫恒 木寺 谷本 谷川 尾禹 谷芳 庄
喜治 房喜 竹治 三社 二太 三兵 三八 三兵
兵 一久 郎郎 助郎 平郎 郎郎 衛郎 助郎 郎助 郎衛 助
衛 助郎

阿波 土佐 讃岐 全 伊豫 肥後 肥前 筑前 長門 雲州 全 全 全 全 安藝 全 全 全 備後福山
德島 高知 高松 今治 松山 熊本 長崎 福岡 舟木 松江 廣島 府中 三原
阪 澤本 岡田 阿部 土肥 長崎 米原 林 中原 園山 清水 早田 友 以藤 松村 三野 天木 野村 整理
萬 駒吉 爲吉 利助 與平 次郎 多藏 斧助 卯兵衛 喜右衛門 庫三郎 速社 藤助 文社 善助 宗兵衛 伊右衛門 清三郎 理舍

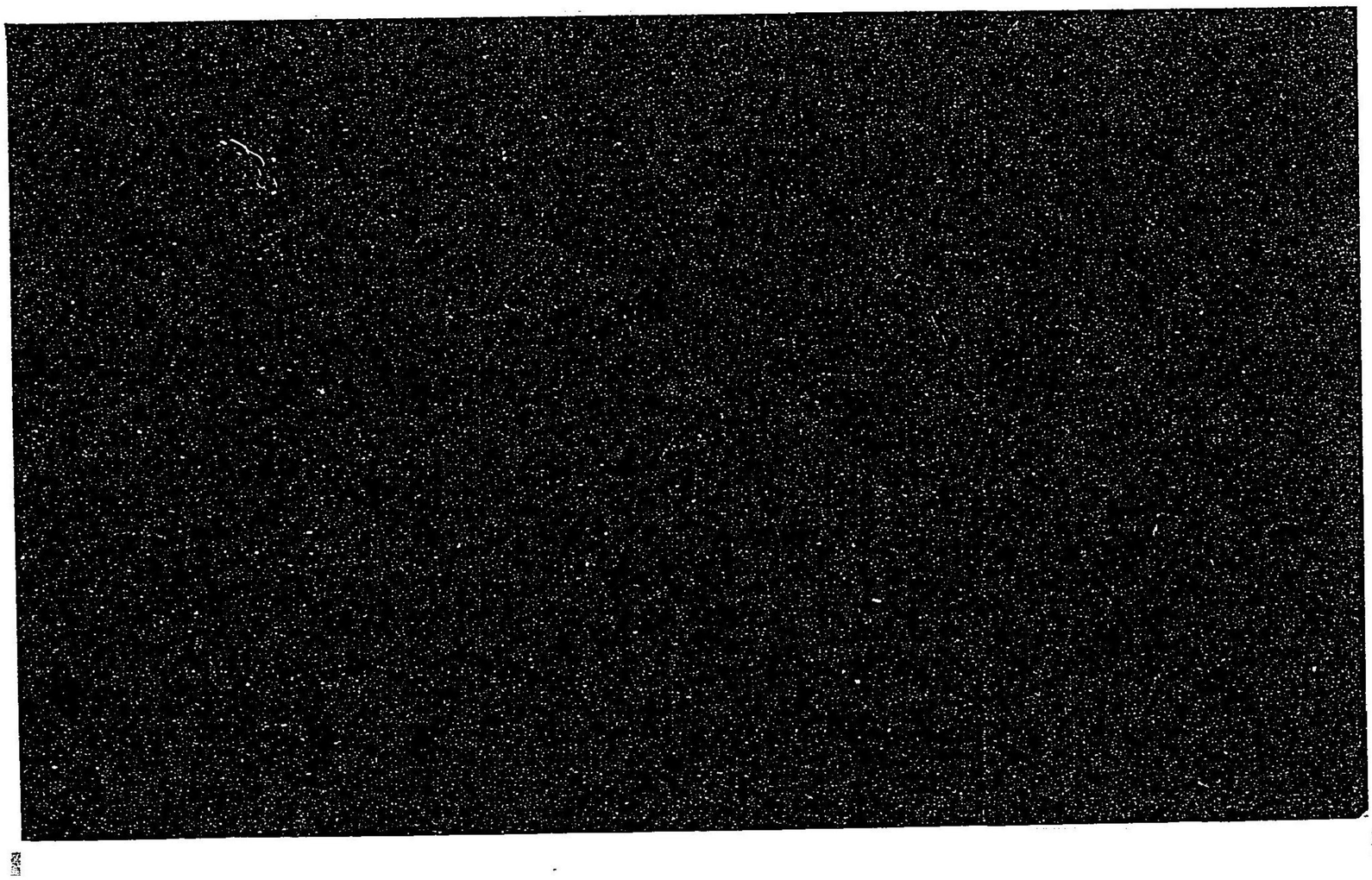


32
247

036732−000−9

32−247

刑事民事控訴法解

戸田　十畝／著

M18
BBS−0162